

令和7年度 静岡県教育研究会

＜第3回＞書写教育研究部委員研修会

令和8年2月17日(火)14:30～16:30

「静岡県教育会館」 中会議室(地下)

◇静教研テーマ「**ときめき かかわり 未来へつなぐ**」

◇令和7年度 書写研究部テーマ

「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、

文字文化を大切にする子を育てる書写教育」

1. 開会のことば (井上副部長)

2. 部長講話 (羽山部長)

3. 議事および報告事項 (司会:部長)

＜議題1＞…令和7年度の研究活動について

(1) 研究部事業報告 (事務長)

(2) 各地区の研究活動報告 (各地区代表)

(3) 第75回「県席書コンクール」の成果と課題 (井上副部長)

(4) 第19回「県小中学校児童生徒書き初めコンクール」の成果と課題(小松)

(5) 決算報告および会計監査 (会計主任・監査員)

(6) 成果刊行物『書写研』について (事務長)

＜議題2＞…令和8年度の研究活動について

(1) 静教研研究部代表者研修会報告 (部長)

(2) 研究部事業計画 (事務長)

(3) 夏季研究大会について (尾崎実行委員長)

(4) 令和8年度以降の研究部事業と組織について(部長)

4. 連絡

・令和8年度 第1回委員研修会…令和8年5月19日(火) <会場:静岡県教育会館>

・書き初め最優秀作品…3月に学生協より返却

・令和8年度 各地区校長代表, 教員代表の報告…次年度、決定次第報告をお願いします

5. 全体会の閉会のことば (荒井副部長)

6. 東部・中部・西部地区別研修 (副部長を中心に、来年度の研究・研修計画 他)

7. 次年度事務局引継ぎ (部長・事務長・会計主任・席書担当・書き初め担当・次年度担当地区)

静岡県教育研究会書写教育研究部

令和7年度 静岡県教育研究会書写教育研究部 組織

No.	地区名	氏名	学校名	郵便番号	学校住所	電話番号	ファクシミリ		
代表	部長	羽山 和美	焼津市立大井川東小学校	421-0205	焼津市宗高428	054-622-0010	054-622-7910		
	副部長	静岡	井上聖一郎	静岡市立竜南小学校	420-0804	静岡市葵区竜南1-23-1	054-246-3061	054-247-5734	
		静東	荒井 威雄	伊東市立対島中学校	413-0232	伊東市八幡野1128-3	0557-53-0046	0557-53-1184	
事務局	事務長	小林 良樹	焼津市立豊田小学校	425-0077	焼津市五ヶ堀之内2	054-628-3201	054-626-1951		
	会計主任	田宮 宗典	藤枝市立藤枝中学校	426-0087	藤枝市音羽町1丁目1-51	054-641-0584	054-641-5793		
静岡	1	賀茂地区	校長代表	菊地 正仁	下田市立稲生沢小学校	415-0032	下田市立野6-1	0558-22-0424	0558-22-1084
			教員代表	西川美穂子	南伊豆町立南伊豆中学校	415-0302	賀茂郡南伊豆町上賀茂744-1	0558-62-0041	0558-62-3345
	2	田方地区	校長代表	若月 哲也	函南町立函南中学校	419-0114	田方郡函南町仁田56	0559-78-3145	055-979-7082
			教員代表	黒石 久子	伊豆の国市立長岡南小学校	410-2211	伊豆の国市長岡1294-1	055-948-0106	055-948-2580
	3	東豆地区	校長代表	荒井 威雄	伊東市立対島中学校	413-0232	伊東市八幡野1128-3	0557-53-0046	0557-53-1184
			教員代表	小松 里奈	熱海市立伊豆山小学校	413-0002	熱海市伊豆山711	0557-80-5245	0557-80-2275
	4	三島地区	校長代表	大村 慎一	三島市立坂小学校	411-0015	三島市市山新田163-2	055-971-1231	055-976-4369
			教員代表	村松 由理	三島市立山田中学校	411-0022	三島市川原ヶ谷842-4	055-981-2474	055-981-2476
	5	駿東地区	校長代表	庄司 勝彦	裾野市立東小学校	410-1121	裾野市茶畑399	055-992-0049	055-992-1300
			教員代表	高橋 靖彦	小山町立明倫小学校	410-1312	駿東郡小山町菅沼627	0550-76-0064	0550-76-0051
	6	沼津地区	校長代表	高村 淳子	沼津市立浮島小学校	410-0318	沼津市平沼811	055-966-2004	055-966-2549
			教員代表	大石 明美	沼津市立原中学校	410-0312	沼津市原576	055-966-0138	055-966-1612
	7	富士地区	校長代表	津田 美知子	富士宮市立東小学校	418-0072	富士宮市矢立町227	0544-27-2573	0544-22-2360
			教員代表	鈴木 未彩	富士宮市立黒田小学校	418-0035	富士宮市星山1030-2	0544-26-2670	0544-22-2361
8	静岡地区	校長代表	尾崎 未希	静岡市立足久保小学校	421-2124	静岡市葵区足久保口組3276-2	054-296-0051	054-296-1857	
		教員代表	小倉 拓海	静岡市立蒲原中学校	421-3203	静岡市清水区蒲原49	054-385-4115	054-385-4116	
9	静西(席書は中部)	志太地区	校長代表	羽山 和美	焼津市立大井川東小学校	421-0205	焼津市宗高428	054-622-0010	054-622-7910
			教員代表	萩山 嵩心	島田市立川根中学校	428-0103	島田市川根町身成3340	0547-53-2036	0547-53-2039
10	榛原地区	校長代表	櫻井 真弓	牧之原市立相良小学校	421-0504	牧之原市波津1642	0548-52-1433	0548-52-5844	
		教員代表	塚本 彰子	牧之原市立細江小学校	421-0421	牧之原市細江1260	0548-22-0024	0548-22-8538	
11	小笠地区	校長代表	石山 千夏	掛川市立大坂小学校	437-1421	掛川市大坂5667	0537-72-2518	0537-72-4243	
		教員代表	榛葉 恵理	掛川市立北中学校	436-0342	掛川市上西郷220-2	0537-24-1915	0537-24-1916	
12	静西	磐周地区	校長代表	竹下 敦子	袋井市立袋井東小学校	437-0021	袋井市広岡2317-1	0538-42-2345	0538-43-2306
			教員代表	小杉 むつみ	森町立宮園小学校	437-0225	周智郡森町谷中650	0538-85-3766	0538-85-3767
13	湖西地区	校長代表	藤井 千帆	湖西市立東小学校	431-0421	湖西市新所680	053-578-1094	053-578-3345	
		教員代表	菅原 拓也	湖西市立白須賀小学校	431-0451	湖西市白須賀5030	053-579-0330	053-579-2383	
本部専門員	静岡東	田方	萩野 千賀	伊豆の国市立韭山小学校	410-2123	伊豆の国市四日町350	055-949-1023	055-949-3611	
		作品展示	石塚 正浩	静岡市立長田東小学校	421-0112	静岡市駿河区東新田3-10-1	054-259-7516	054-257-8932	
	静岡	静岡	小林 典子	静岡市立松野小学校	421-2122	静岡市葵区松野598-2	054-294-0002	054-294-0122	
		静岡	勝山 幸子	静岡市立大里西小学校	422-8058	静岡市駿河区中原400	054-285-9195	054-288-7630	
		静岡	望月 絵里子	静岡市立南部小学校	422-8074	静岡市駿河区南八幡町11-1	054-286-8019	054-288-7632	
		静岡	川口 史記	静岡市立井宮小学校	420-0876	静岡市葵区平和1-7-1	054-271-5288	054-252-7134	
		静岡	高野 早紀	静岡市立清水興津小学校	424-0204	静岡市清水区興津中町350-1	054-369-0185	054-369-0187	
		静岡	織部 祐衣	静岡市立服織小学校	421-1215	静岡市葵区羽鳥六丁目9-1	054-278-6322	054-277-0264	
		静岡	成岡 陽奈	静岡市立新通小学校	420-0042	静岡市葵区駒形通二丁目4-47	054-252-1301	054-252-2629	
		静岡西	志太	秋山 綾子	島田市立島田第一小学校	427-0038	島田市稲荷二丁目19-1	0547-35-5211	0547-35-5216
磐周	小杉 むつみ		森町立宮園小学校	437-0225	周智郡森町谷中650	0538-85-3766	0538-85-3767		

令和7年度 書写教育部 研究部 役員一覧

		氏名	学校名	職名	Email	個別／共用
部長		羽山 和美	焼津市立大井川東小学校	校長	ooigawa_higashi_sho@city.yaizu.lg.jp	共用
副部長		井上 聖一郎	静岡市竜南小学校	校長		
		荒井 威雄	伊東市立対島中学校	校長		
事務長		小林 良樹	焼津市立豊田小学校	教諭	toyoda_sho@city.yaizu.lg.jp	共用
幹事	校長	荒井 威雄	伊東市立対馬中学校	校長		
		井上 聖一郎	静岡市竜南小学校	校長		
		大村 慎一	三島市立坂小学校	校長		
	教職員	小倉 拓海	静岡市立蒲原中学校	教諭		
		小松 里奈	熱海市立伊豆山小学校	教諭		
		石塚 正浩	静岡市立長田東小学校	教諭		
会計監査		荒井 威雄	伊東市立対島中学校	校長		
		井上 聖一郎	静岡市立竜南小学校	校長		
		大村 慎一	三島市立坂小学校	校長		
研究大会	実行委員長	高村 淳子	沼津市立浮島小学校	校長	t1950@numazu-szo.ed.jp	個人
	事務局長	大石 明美	沼津市立原中学校	教諭	t3850@numazu-szo.ed.jp	個人
編集委員	主任	小林 良樹	焼津市立豊田小学校	教諭	toyoda_sho@city.yaizu.lg.jp	共用
	大会報告執筆	大石 明美	沼津市立原中学校	教諭	t3850@numazu-szo.ed.jp	個人
	研究冊子執筆	榛葉 恵理	掛川市立北中学校	教諭	office@kita.ed.kakegawa-net.jp	共有
	研究部成果刊行物責任者	小林 良樹	焼津市立豊田小学校	教諭		
会計	主任	田宮 宗典	藤枝市立藤枝中学校	教諭	fujieda-jh@fujieda-ed.jp	共有
	夏季大会	中山 穂子	沼津市立片浜小学校	教諭	t0850@numazu-szo.ed.jp	共有
評議員		部長と事務長は評議員を兼ねる				

令和7年度 書写教育 研究部 事業報告書 (案)

静教研三大事業

研究大会	開催方法	集合開催 リアルタイム配信				
	日時	令和7年 8月 6日 (水) 13時00分 ~ 16時15分				
	会場	沼津教育会館 (集合・配信会場)				
	参加者数	200人	分科会数	なし	実践発表者数	2人
内容	開会式 実践発表 講演 閉会式 ① 河津町立河津小学校 村松未央 教諭 ② 伊東市立門野中学校 太田泰成 教諭 実践発表の指導講評を兼ねる 学校法人法城学園こぼとこども園 前園長 紅林定宏 氏 ・全体会 ・講演会 ・分科会 等の概要					
調査研究活動	事業名	実施内容 (実施日・会場・内容等)			参加者・人数等	
	席書コンクール	作品評価会 (12月5日 (金)・審査) 県教育会館にて最優秀賞受賞作品展 12月19日 (金) ~ 1月15日 (木)			参加人数 260,000点 最優秀作品 180点	
	書き初めコンクール	作品評価会 (2月10日・審査) 県教育会館にて最優秀賞受賞作品展 2月22日 (日) ~ 3月3日 (火)			最優秀作品 81点	
研究成果刊行	刊行物名	内容			刊行部数・頒布先・方法等	
	「書写研」	・事業報告 ・夏季研究大会実践報告資料 ・各地区の研修報告 ・席書コンクールの成果と課題 ・書き初めコンクールの成果と課題			静教研 書写研究部員 静教研 HP に掲載	

本年度の成果と課題

- ・各コンクールの評価研修会において、作品を見合う時間を多く取ることで、教師の指導力向上につながってくると考えた。
- ・夏季研究大会の実践発表や講演を通して、子供が書き順を間違える理由や、文字の成り立ち (字源) を理解することの重要性について考えた。また、作品を出品することや題字通りに書くよりも、「字の楽しさ」や「文字の魅力」に気付かせる重要性について再認識したとの声が多かった。
- ・多くの地区で、教科書の字体に合わせて整えて書ける児童が増えている一方で、日常で使う書き取りやノートの字形が崩れてしまうことが課題として挙げられた。書写の授業をどのように日常に生かすか取り組みを考えていきたい。
- ・各コンクールについて、各地区審査がなくなった初年度であった。持続可能な開催方法について、話し合いを重ね、次年度につなげていきたい。

令和7年度

地区研修報告書

- 1 加茂地区
- 2 田方地区
- 3 東豆地区
- 4 三島地区
- 5 駿東地区
- 6 沼津地区
- 7 富士地区
- 8 静岡地区
- 9 志太地区
- 10 榛原地区
- 11 小笠地区
- 12 磐周地区
- 13 湖西地区

令和7年度 書写教育研究部研修報告

賀茂地区

1. 研究テーマ／重点目標および設定の理由

(1) 研修テーマ

正しく書くことを生活の中に生かそうとし、文字文化を大切にする子を育てる書写指導

(2) 重点目標および設定の理由

- ① 文字を正しく書き、手書きのよさを認識できる場の設定をし、生活の中で進んで使う姿勢を養うため。
- ② 文字意識を高め、字を書くことが生涯学習につながる作品展示の場をつくるため。
- ③ 評価会を通して、子どもの作品を見る視点を互いに学び、教師の指導力や評価に対する資質能力を高めていくため。

2. 実施概要(経過および内容)

6月16日	静教研書写研究部夏季大会事前研修会	河津小学校
8月6日	静教研書写研究部夏季大会 河津小学校 村松未央教諭による発表 テーマ 「正しく書くことを、生活に生かす書写指導 ―子供たちが自ら追求したくなる授業づくり―」	沼津教育会館
11月25日	賀茂地区小中学校席書コンクール作品評価会	賀茂教育会館
1月16日	賀茂地区小中学校書き初め展作品評価会	賀茂教育会館

3. 成果と課題

- ・静教研夏季大会では、賀茂地区の代表として、河津小学校の村松未央教諭が発表を行った。日頃から整った字形にするためにはどうしたらよいかを理論的に考え、子どもたちが目標を達成できるように数種類のワークシートを用意して、意欲的に練習できる配慮が随所に見られた発表となった。また、書写の授業だけではなく、日常生活にも毛筆が使えるようにと、廊下に筆ペンを常設するなど、生活の中に書写が生かせる場面設定を行っていることも発表することができた。
- ・今年度、静岡県席書コンクールの審査方法変更に伴い、賀茂地区小中学校席書コンクールの特選・入選数の見直しおよび出品数の削減など、児童・生徒数の減少に伴い、見直しを行った。出品数の減少に伴い、一学年にかけられる審査時間をしっかり確保することができた。
- ・席書・書き初めコンクールでは、力作が多く、各校での指導が徹底されている様子がうかがえた。
- ・今年度は、静教研の発表を重点としたため、席書と書き初めの実技研修会を行うことができなかった。

4. 次年度への構想

研修テーマの達成に向けて、書写の授業やコンクールだけではなく、日々の教育活動の中で正しく書くことを意識できるよう、様々な場面で書くことを大切にしていきたい。これからますますICTが普及し、手軽さから手書きよりもデジタル文字が選ばれることが予想される。手書きのよさを私たち教員がしっかりと自覚し、児童・生徒に伝えていきたい。

1 研究テーマ／重点目標および設定の理由

(1) 研究テーマ

「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切に育てる子育てる書写教育」

(2) 設定の理由

教師自身が文字のよさを深く理解して語れる指導力を高め、生活の中で生きた文字を書く子を育てたいと考え、本テーマを設定した。

(3) 重点目標

- ・書写教育と日常生活との関連を図り、習得した技術を「生きて働く力」へと高める導法の工夫
- ・確かな師範と適切な評価を通して、子どもが文字文化のよさを実感できる授業づくり

2 実施概要（経過および内容）

5月15日	第1回 幹事会	長岡南小学校
5月28日	田教研書写部5月研究部会	菰山小学校
8月6日	静教研書写教育研究部夏季研究大会へ参加	オンライン参加（沼津教育会館）
9月8日	書写実技研修会	田方教育会館
11月21日	作品評価研修会①（席書コンクール審査）	長岡南小学校
	第2回 拡大幹事会	
12月5日	席書コンクール県審査（副部長参加）	静岡県教育会館
1月16日	作品評価研修会②（書き初めコンクール審査）	長岡南小学校
	第3回 幹事会	
2月10日	書き初めコンクール県審査（副部長参加）	静岡県学生協連合会

3 成果と課題

(1) 成果

ア 本年度の実技研修会は、紅林定宏先生を招き、席書コンクールに向けて実技指導をしていただいた。講師の運筆や墨継ぎのタイミングなどを間近で見ながら、参加者も、水筆用筆を使って実際に書くことで、指導のポイント等をつかむことができた。また、講師の話から文字文化に関する知識を広げることができた。

イ 審査会での作品鑑賞・評価を通して、日々の指導の成果と課題を客観的に振り返ることができた。

(2) 課題

ア 実技研修会や審査会で研修した内容を各校で確実に伝達、共有し、書写指導の向上に努めていく。

イ 来年度も、より多くの学校が実技研修会に参加できるように、日程調整を確実にしていく。

ウ 若手教員が増えているので、書写の指導はもとより、作品の評価の仕方、書写教育部の運営田方地区の取り組み等を継承していく必要がある。

エ 席書コンクール地区審査において、出品区分を誤認するミスがあった。審査準備の段階で出品票の記載漏れを照合するプロセスを厳格化するとともに、二人以上で作業にあたり、相互確認を義務づけるようにする。

4 次年度への構想

(1) 実技講習会を実施し、学習指導要領をふまえた書写指導の向上を図る。

(2) 各審査会において、基礎・基本をおさえた作品評価研修を充実させる。

(3) 席書コンクール・書き初めコンクールの出品点数や提出方法等、本部と確認しながら進める。

令和7年度 書写教育研究部研修報告

(東豆地区)

1 研究テーマ

自分の課題を見つけ、正しく整えて書こうとする子を育てる書写教育

重点目標

- (1) 書写指導のねらいを明確にし、硬筆に生かす毛筆指導
- (2) 子どもたちの書写力向上につながる基礎的・基本的技能習得のための手立て
- (3) 確かな目で作品を評価するための観点のあり方

2 実施概要（経過および内容）

- 4月 書写研修会 ・年間計画の立案
- 8月 研究発表（伊東）伊東市立門野中学校 太田泰成先生
テーマ「文字のもつ力に気付き、文字文化を生活に生かすことができる生徒の育成」
- 10月 書写研修会（熱海） ・市内書写展の計画、内容の検討
・席書コンクール実施要綱について
- 11月 市内書写展開催（熱海）
書写研修会（伊東） ・席書コンクール作品地区審査会及び評価研修
静岡県席書コンクール東豆地区審査
- 1月 静岡県書き初めコンクール東豆地区審査 ・令和7年度の活動の反省
- 2月 静岡県書き初めコンクール県審査

3 成果と課題

【成果】

- ・審査会を通して、作品の見方のポイント、指導で押さえるべき点を確認することができた。
- ・タブレット活用の場面が増える一方で、日本の文化を学ぶ書写の時間の重要性を再認識することができた。
- ・研究発表に向けて、各学校で実践・研究を行った。書写教育を国語教育と切り離すのではなく、国語の単元の中に位置付けて考えられるような構想をした、書写を特別なものとして捉えるのではなく、日常生活に生きる学習として捉える生徒が増えた。
- ・市内書写展や校内展示など、優秀な作品を鑑賞する場を意図的に設けることで、とめ、はね、はらいなどの基本点画を意識し、字形よく書くことへの意欲付けや、字配り、中心をそろえて書くなど、作品のよさや文字の美しさを伝えることができた。
- ・各種コンクールの審査会には、日頃の指導の積み重ねにより、良い作品が多く出品された。

【課題】

- ・タブレットの活用に伴い、子供たちの書く機会は減少している。書写の授業を通し、丁寧に書くこと、それぞれの思いをもって書くことなど、より一層書写の授業の充実を図る必要がある。
- ・中学校は書写の授業時数が少ない。その中で可能な取り組み方を検討していく必要がある。各種コンクールへの作品選出も一部の生徒に偏る傾向があり、授業での指導を生かした取組にしていくのはかなり難しい。
- ・作品や用具の扱い方については、教員研修を通して具体的な指導方法を学び、授業に生かせるようにしたい。
- ・毛筆による指導を通して、最終的に日常の硬筆の書写力につなげるため、水書筆などを効果的に取り入れていくことも考えていきたい。

4 次年度への構想

- ・小学校での楷書から中学校での行書の指導の接続を意識し、義務教育での書写教育の重要性を理解し、個々の教師の授業力、指導力向上のため、授業実践を積み、実技を伴う研修等を行うなど、研修会の充実を図っていく。
- ・ICT 機器の活用、水書による指導など、子供の力を高める有効な手立てについて情報交換、情報共有する場を設け、書写主任を中心に指導のあり方を考えていきたい。

令和7年度 書写教育研究部研修報告

三島地区

1 研究テーマ／重点目標および設定の理由

(1) 研究テーマ

『自己課題をもって、楽しく取り組む書写学習』

(2) テーマ設定の理由

書写の指導においては、文字を正しく整えて書く、つながりを意識して書くことができるようにするとともに、書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科の学習や生活の様々な場面（硬筆を使用する場面）で積極的に生かす態度を育成することが求められている。

そのためには、自分なりに課題意識をもって、楽しみながら書写学習に取り組むことが大切であると考え、このテーマを設定した。

2 実施概要（経過および内容）

(1) 4月 書写研修会

本年度のテーマ、事業計画等の確認、役割分担の決定

(2) 7月 夏の研修会（実技講習会）

講師を招聘し、席書コンクール課題文字（硬筆・毛筆）についての実技講習会を実施

(3) 11月 秋の研修会（授業実践発表及び協議）

授業実践のまとめの発表後、グループ協議を行い、協議内容を全体で共有した。



(4) 11月 書写研修会

市内席書コンクール審査、次年度事業計画について

(5) 11～12月 各校にて、書写作品展の開催

(6) 1月 書写研修会

市内書き初めコンクール審査

3 成果と課題

- ・夏の研修会（実技講習）で硬筆を教えていただいたのは初めてだったので、とても勉強になった。筆順は中学校での行書につながると聞き、小学校のうちから筆順を正しく教えようと思った。
- ・秋の研修会（授業実践発表及び協議）では、ワークシートを複数用意したことで児童が自分で用紙を選択することができていると感じた。また、その工夫をしたことが、「やりたい」と思わせる仕掛け作りに繋がっていた。
しかし、児童が考える課題と教員の考える課題に差が出てしまう部分もあるのではないかという意見も出た。

4 次年度への構想

- ・来年度も、実技講習会や授業研究会を通じて、書写における教員の授業力及び指導力向上につなげていきたい。
- ・書写学習における多様な学びについて、さらに事例が蓄積できるよう、研修会を通じて情報共有していきたい。

令和7年度 書写教育研究部研修報告

(駿東地区)

1 研究テーマ／重点目標および設定の理由

(1) 研究テーマ

「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切にする子を育てる書写教育」

(2) 重点目標

- ・毛筆学習で習得した知識・技能を硬筆学習へ活用していく。
- ・9年間を見通した系統的な指導方法について研究、実践する。

(3) 設定の理由

書写の授業で児童・生徒は、「上手に書けるようになりたい」という気持ちをもっており、授業を重ねるごとに書写教育の目標である「文字を正しく整えて書く」に近づいていく実感がある。書写の時間は、手本をよく見て、正しい筆順で整った形で書こうとする姿が見られるが、日頃のノートや漢字書き取りでは、字形の崩れや乱雑に書いてしまう児童・生徒がおり、その意識の差が課題としてあげられる。そこで、毛筆の活動への関心の高さを生かした書写指導を義務教育9年間を見通して系統的に行えば、児童生徒は文字を正しく整えて書くことの大切さに気付き、日頃の硬筆活動へと意欲がつながるであろうと考え、本テーマを設定した。

2 実施概要(経過および内容)

- (1) 8月 6日 静教研夏季研究大会(沼津教育会館)大会運営
実践発表:河津小学校 村松教諭・門野中学校 太田教諭
紅林定宏先生による講話「文字文化の継承に繋がる書写学習」
- (2) 11月 11日 駿東地区書写研修会(駿東地区教育会館)
席書コンクール作品の指導・評価方法についての情報交換および児童生徒の作品評価
- (3) 1月 13日 駿東地区書写研修会(駿東地区教育会館)
書き初め作品の指導・評価方法についての情報交換および児童生徒の作品評価

3 成果と課題

- ・夏季研究大会に参加した教員からは、「小学校から中学校へのつながりを意識し、系統的に指導することの大切さがわかってよかった。」「点画のつながりの観点から、筆の動きを学ぶことの大切を実感する機会となった。」という声が聞かれた。
- ・児童生徒が、基本的な筆遣いを習得するための指導法や鉛筆、筆の持ち方の指導の工夫が必要であると感じた。今まさに、子供たちが「教わる」書写学習だけでなく、「自ら考えて学ぶ」書写学習への転換期にある。
- ・自己評価の時間や振り返りの場の確保が難しく、授業時間内に片付けまで含めた計算された時間配分が必須である。指導方法や授業形態の工夫が必要である。

4 次年度への構想

本年度の席書コンクール審査会は、例年通りの出品数割合と選出数割合で実施した。しかしながら、県審査へ上げる特選(14点)と地区として特に称揚しないが優秀と認められる入選(約20点)を選出したため、審査が複雑かつ長時間に渡ってしまった。次年度は校内での書写研修の時間を充実に出品者数を減らし、短時間で集中して審査会が行えるように形式を整えたい。

また、義務教育9年間を見通し、次の学年だけでなく、小学校から中学校へのつながりを意識した書写指導を継続して研修していきたい。

【提出物】

令和7年度 書写教育研究部研修報告 (沼津) 地区

1. 研究テーマ

正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切にすることを育てる書写教育

重点目標

- ・書く楽しさをひとりひとりに味わわせる。
- ・課題を持って、より正しく書くことで、文字に対する関心を高める。
- ・書写における指導と評価の一体化を追究する。

2. 実施概要(経過および内容)

- (1) 夏季研究大会の運営
- (2) 席書コンクール
- (3) 書き初めコンクール

3. 成果と課題(席書コンクール審査会・書き初めコンクール審査会にてアンケートを実施)

各校の成果

- ・結びの字形が特に気になったので、重点的に指導すると良いと感じた。
- ・一画一画がていねいで、名前もよい。指導のおかげで、よい字が書けていた。
- ・小学校の高学年においては、しっかりとポイントをおさえて取り組んでいた作品が多かった。

各校の課題

- ・「光」の四画目が中心から下りるように、バランスや筆の使い方について指導を徹底したい。「日」と「光」のバランスを整えたい。
- ・右はらい、左はらいをそれぞれ指導するうえで、筆の運び方、力の抜き方を指導することが難しかった。特に右はらいの、一度止めてからずっと抜く部分でつまづく児童が多かった。
- ・文字と学年・名前のバランスを整えるように指導をしたい。
- ・接筆ができていなくて、審査からはずれてしまった作品が多かったため、そこに注目して書くことを今後活かしていきたい。
- ・氏名の書き方(小筆)の指導にも力を入れていきたい。
- ・中1学年は、楷書体の書き方から行書体への移行指導が必要と思われる。

4. 次年度への構想

今年度、実技指導・実演を交えての研修をしたことが、よりよい書写指導の糸口を見つけるきっかけとなった。沼津地区における書写教育の意義を著しく高める活動であった。次年度においても、児童・生徒の実情を鑑みながら、文字を書くことが身近で前向きになれる活動となるよう、様々な研修活動を模索していきたい。

令和7年度 書写教育研究部研修報告 (富士) 地区

1. 研究テーマ／重点目標および設定の理由

「書とのふれあい～やさしいレッスン～」

【設定理由】

・書道というと難しく堅い印象を持ちやすいが、かなの成り立ちや書風の違いを知ることで、書の面白さや奥深さを感じることができると考えた。また、筆の動かし方や力の入れ方などを実演を通して学ぶことで、基礎的な技法を無理なく体験的に理解できる内容である。本講義の学びを通して、児童にも書に親しむきっかけとして伝えられると考え、「書とのふれあい～やさしいレッスン～」というテーマを設定した。

2. 実施概要(経過および内容)

今回の講義では、「かな」の書き方を中心に、書の奥深さと表現の幅広さについて学ぶことができ、大変貴重な時間となった。講師はまず、「かな」がどのように漢字から崩れて生まれたのかという成り立ちについて、具体的な字を例に挙げながら丁寧に説明した。その過程で、書体が同じでも時代や書き手によって書風に大きな違いが見られることを、実際の石碑の写真を通して紹介し、書が単なる文字ではなく、時代や人物を映し出す表現であることを改めて実感した。

実技では、筆の持ち方、始筆の取り方、筆の動かし方、力の入れ方などを、講師の手元を見せながら細やかに解説した。「突き返す」動作や「連綿(れんめん)」の筆遣いなど、繊細な技法についても実演し、理論と実技が結びついた非常に理解しやすい内容であった。実際に筆を動かす中で、わずかな力加減や筆圧の違いが文字の印象を大きく左右することを体感し、書の世界の奥深さに改めて魅了された。

また、講師からは、書写指導において児童が楽しみながら学べる工夫や、歴史的背景を踏まえた指導の重要性についても言及があった。書は単なる技能習得にとどまらず、集中力や心の落ち着きを育む教育的価値を持つことを再認識した。日頃、児童に文字の書き方を指導する立場として、筆の動きや書の歴史的背景を知ることができると感じた。

今回の学びを今後の授業づくりに生かし、児童が書くことを楽しみながら、正しい習慣を身につけられるような指導を心がけていきたい。

3. 成果と課題

○夏の研修会を通して、書写、書道に楽しく取り組む体験ができた。

●新しい審査方法が各校の担当に混乱を招いてしまった。

4. 次年度への構想

・審査方法などを速く確実に周知し、円滑に進められるようにする。

・引き継ぎを確実にし、次年度の担当がこまらないようにする。

令和7年度 書写教育研究部研修報告

(静岡) 地区

1. 研究テーマ／重点目標および設定の理由

(1) 研究テーマ

「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切に育てる子育てる書写教育」

(2) テーマ設定の理由

「文字を正しく整えて書く」ことが、書写教育の目標である。そこに、新学習指導要領のキーワードである「書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる」と、「我が国の伝統文化に関する事項を身に付けることができるよう指導する」の2点を加えた。「生活に生かそうとし」で、日常生活に役立てようという意欲をもつことを、「文字文化を大切にする」で、日本の文字文化を大切に、相手意識を持って文字を書こうとする態度を身に付けることを願っている。

2. 実施概要(経過および内容)

- 5月・第1回総務会(於:県教育会館)…本年度の活動内容について
- 10月・第2回総務会(於:県教育会館)…「席書コンクール」市の扱いおよび市評価会、県評価会の運営について
- 11月・「席書コンクール」市評価会(於:静岡市教育センター)
- 12月・「席書コンクール」県評価会の運営(於:県教育会館)
 - ・「席書コンクール」最優秀作品展の展示作業(於:県教育会館)
- 1月・「席書コンクール」最優秀作品展の撤去作業(於:県教育会館)
 - ・「書き初めコンクール」市評価会(於:清水興津小学校)
- 2月・「書き初めコンクール」県評価会(於:県学生協連合会)
 - ・第3回総務会(於:県教育会館)…次年度の活動内容について
 - ・「書き初めコンクール」最優秀作品展の展示作業(於:県教育会館)
- 3月・「書き初めコンクール」最優秀作品展の撤去作業(於:県教育会館)

3. 成果と課題

- 「席書コンクール」では、地区および県の運営においてデータ処理のデジタル化を進めた。地区の評価会当日は、評価および研究活動に多くの時間を費やすことができた。県評価会当日は、事前の丁寧な準備により、試行的部分も含めて円滑に運営できた。
- 「書き初めコンクール」では、担当を中心に部員間で密に連携を図りながら準備を進め、各校に参加を促すことができた。
- 地区における両評価会では、選出のポイントや評価を担当した学年の傾向、改善点などについて共有し合う時間を設けたことで、今後の指導への生かし方について考えることができた。
- 引き続き、市書写部や書写教育に関する活動について、市全体にひろく知ってもらう必要がある。
- 課題文字の誤りや敷き写しなど、授業者の不手際によって子どもが不利益を被らないよう、各校での指導段階での留意点について、丁寧に周知していく必要がある。
- 「書き初めコンクール」では、本来の書き初めの意義を踏まえて実施すると各校での指導に費やせる時間が極めて少なく、意思と反して参加が難しいことについて疑問が残った。

4. 次年度への構想

各種評価会に、より多くの教員が携わることを通して、根幹となる各校での書写指導に対する共通理解を図るとともに、市書写部の研究内容や現況などについても市全体で広く共有していきたい。

運営面では、ICTを用いた運営に切り替えて5年が経つ。特別支援学級の増設等に伴い改善の余地があるため、より円滑な方法を模索していきたい。

次年度は「席書コンクール」県評価会および「夏季研究大会」の運営担当地区に当たっている。「席書コンクール」においては今年度の課題をふまえ、「夏季研究大会」においては研修テーマの実現に向けてより良い研究活動ができるよう、各所と連携を図りながら準備を進めていきたい。

令和7年度 書写教育研究部研修報告

(志太) 地区

1. 研究テーマ／重点目標および設定の理由

【研究テーマ】

正しく整えて書くことを日常生活に生かそうとし、文字文化を大切にする子を育てる書写教育。

【重点目標および設定の理由】

硬毛関連の指導を通して、書写の基礎基本を身につけ、日常生活や学習活動に役立つ書写の能力や書文化に対する理解と愛情を育てるため上記テーマを設定した。

2. 実施概要(経過および内容)

5月18日 推進委員会にて研究テーマの設定や8月開催の研究集会の運営計画の作成。

6月2日 志太地区研究集会に向けての準備事項の検討や講師との打ち合わせ。部報作成。

7月26日 志太地区教育研究集会に向け発表のリハーサル、当日の運営についての最終確認。

8月1日 志太地区教育研究集会の開催。

実践発表1「文字を整える方法と意義を知り、自ら日常生活に生かす子の育成」

焼津市立豊田小学校 杉原 しおり 教諭

実践発表2「主体的に文字文化を継承しようとする生徒の育成を目指して」

藤枝市立大洲中学校 山崎 聡美 教諭

講話「水書で楽しく学ぶ授業」講師 紅林 定宏先生

研究集会終了後、推進委員会開催。反省と次年度の方針の確認。

11月中旬 各市で席書コンクールの評価研修・作品審査

11月18日 志太地区席書コンクール審査会

推進委員会にて、本年度の振り返りと次年度の運営計画の作成。

1月中旬 各市で書き初めコンクール審査会

3. 成果と課題

- ・研究集会を通じ、コンクール偏重から「文字文化を大切にする」理念への転換と、実生活における筆文字(年賀状等)の価値を再確認した。
- ・意欲向上のため、相互助言や振り返りで達成感を味わわせる心理面重視のプロセスが有効である。
- ・書写へのハードルを下げ、意欲の低い児童に向き合わせることが最大の課題であり、解決には「必要感のある題材選定」が不可欠である。
- ・教員が要点を押さえ、低学年から積み上げる体系的指導の確立が必要である。また、書き初め授業の時期も再検討が求められる。

4. 次年度への構想

本年度の成果を踏まえ、「技術の習得」にとどまらない「生活・文化と結びつく主体的な学び」の実現に向け、以下3点を推進する。

(1)生活への活用と文字文化継承を意識した実践

- ・コンクール中心の指導に加え、手紙や掲示物など実生活で「必要感のある題材」を積極活用する。
- ・水書、硬筆を活用してハードルを下げ、文字文化の豊かさや楽しさを実感できる授業を目指す。

(2)「対話」と「振り返り」重視の指導確立

- ・相互助言により改善点に気づく「対話的な学び」を取り入れる。
- ・手本の模倣評価にとどまらず、作品比較で成長を実感する時間を確保し、意欲向上を図る。

(3)系統的な指導体制とカリキュラム改善

- ・低学年からの積み重ねを重視し、発達段階に応じた指導要点を教員間で共有する研修を行う。
- ・教員の指導力向上を図ると共に、書き初めの時期や年間計画を見直し、無理なく効果的に力がつくカリキュラムを編成する。

令和7年度 書写教育研究部研修報告

(榛原)地区

1 研究テーマ／重点目標および設定の理由

(1) 研究テーマ

正しく整えて書くことを生活に生かしそうとし、文字文化を大切にする子を育てる書写教育

(2) テーマ設定の理由

小学校学習指導要領の書写に関する事項は、低学年では姿勢と筆記具の持ち方を正しくし、筆順に従って、文字の形に注意して丁寧に正しく書くこととなっている。中学年では文字の組み立て方や配列に加え、毛筆の特質を生かして筆圧などにも注意して書くこととなっている。高学年では書く速さを意識することや、目的に応じた筆記具を選択し、その特徴を生かして書くことが含まれている。

中学校では、小学校での指導を踏まえ、第1学年では漢字の行書の基本的な書き方を理解すること、第2学年では行書に調和したかなの書き方を理解すること、第3学年では身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこととなっている。また、文字を書くことに関する知識・技能を育成するとともに、伝統的な文字文化やこれからの社会に役立つ様々な文字文化に親しむ態度も育てていく。

これを受け、国語科書写では、言葉の伝達性を高めるため、文字を正しく書くための基礎・基本となる事項を子供たちが主体的に学習していくことが重要である。さらに、毛筆指導では、硬筆との関連を強く意識した指導を展開し、日常生活や学習活動に生かす書写の能力を育成したい。

そして、様々な書写の作品に触れ実際に書いてみるなどの体験をすることを通して、文字を書くことの楽しさを感じとり、各行事や活動の中で「書いてみたい」「生かしてみたい」という思いをもたせたい。このような思いを大切にしながら、文字を正しく整えて書くことを生活に生かし、文字文化を大切にする子を育てたいと考え、本テーマを設定した。

2 実施概要(経過および内容)

(1) 榛原地区書写教育研究部実践発表及び席書課題文字実技講習

令和7年8月1日(金) 於 榛原地区教育会館

光の森学園諸田朱美教諭が、「文字文化を楽しみ、正しい文字を生活に生かすことができる力を育成する授業を目指して～義務教育学校の強みを生かして～」というテーマで実践発表を行った。内容は「ICTを活用することで整った点画や文字を身に付け技能と共に学びの実感を得る実践」と「義務教育学校における異学年の交流から学ぶ実践」であった。ICTや学校独自の風土・環境を生かすことで、書写の技能向上や文字文化を尊重する姿勢が育まれることがこの実践を通して証明され、大変参考になった。「書写の指導に不安がある自分でもやってみようと思えた。今後の授業にいかしたい。」といった感想が寄せられ、大変有意義な発表であった。

また、午後は、講師を招聘し、席書コンクールの課題文字について、余白の捉え方や点画のバランスとその意味等、指導する上で注意するポイントについて、示範と実践を通して学んだ。

(2) 地区席書コンクール審査会・書き初め実技講習

令和7年11月14日(金) 於 榛原地区教育会館

学年が上がるにつれて、指導の積み重ねが生かされ、文字の細かいところを調整しながらも伸びやかに書かれた作品が多く見られた。また、書写主任経験の多い審査員が、文字の見方について他の審査員に指導する場面も見られた。

また、午後は、講師を招聘し、小中全学年の書き初め課題文字について、文字の成り立ちの視点から余白や点画のバランスを捉えた指導方法について、示範と実践を通して学んだ。

(3) 地区書き初め展審査会

令和7年1月15日(木) 於 榛原地区教育会館

作品全体を通して、伸びやかで、画の繋がりと配置、接し方など、細かな部分に気を配った作品が多かった。学年が上がるごとに手本の字を自分のものにしようと書き込んでいる様子がうかがえた。午後は、教育芸術祭出品準備を行った。

3 成果と課題

今年度も塚本先生を講師にお招きをし、席書や書き初めの課題文字について実技指導をしていただいた。今年度は、文字の成り立ちと余白や点画の向きの繋がりについて御指導いただいた。新たな視点で文字を見つめ直すことができ、大変参考になった。

4 次年度への構想

日頃の授業において、書写で学んだことを日常生活に活用する力を育成する書写指導の在り方について書写主任を中心として研修をしていきたい。

学校数減少を見越して、審査方法や作品の処理方法について検討し、改善を図りたい。

1 研究テーマ

「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切にする子の育成」

〈活動方針〉

日々の書写指導や席書コンクール、書き初め作品の評価を通して、児童生徒が自分の課題をもてるように指導するとともに、児童生徒の学習意欲を高める。

2 実施概要(経過及び内容)

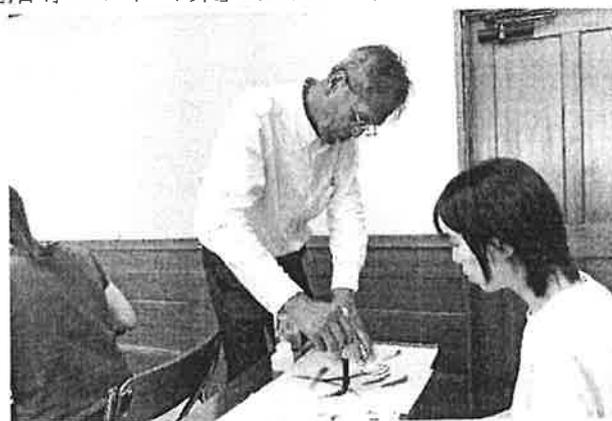
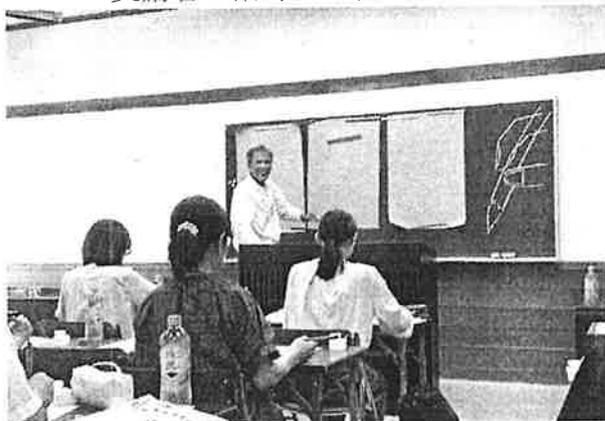
(1) 推進委員研修会他

- ・ 5/26(月) 第1回推進委員研修会:本年度の研修概要及び研修計画立案
- ・ 6/16(月) 第2回推進委員研修会:実技研修会内容検討
- ・ 8/ 5(火) 第3回推進委員研修会:席書コンクールの日程・係分担打合せ
- ・ 10/10(金) 第4回推進委員研修会:席書コンクール評価会事前研修
書き初めコンクール評価会要項確認
- ・ 11/ 12(水) 小笠地区席書コンクール評価会:評価・反省・処理(研究委員・協力委員)
- ・ 12/ 5(金) 静岡県席書コンクール評価会:審査参加(小笠地区副部長)
- ・ 12/18(木) 第5回推進委員研修会:静岡県席書コンクール反省・事後処理
- ・ 1/16(金) 小笠教育研究協会教育研修代表者会:R7活動報告(小笠地区部長・副部長)
- ・ 1/27(火) 小笠地区書き初めコンクール評価会:評価・反省(研究委員・協力委員)
- ・ 2/ 10(火) 静岡県書き初めコンクール評価会:審査参加(小笠地区副部長)
- ・ 2/ 27(金) 第6回推進委員研修会:本年度の反省及び次年度の計画

(2) 小笠地区小・中学校実技研修会

講師…紅林定宏先生(元静岡教研書写教育研究部長)

水書用紙と水書筆を使用し、席書コンクールの課題文字を中心に指導していただいた。受講者の指導の一助となるよう、「席書課題指導のポイント集」を配付した。



3 成果と課題

- (1) 今年度は、久しぶりに実技研修会を行うことができた。話を聞くだけでなく、実際に書いてみることで、児童・生徒がつまずく所が分かり、普段の授業に生かすことができた。
- (2) 小笠地区席書コンクール、書き初め評価会は、作品評価を通して、文字を正しく書くことや日頃の指導方法について研修を深めることができた。手本に忠実で丁寧な作品が多いが、敷き写しやなぞり書きなどいくつか課題も見られた。各校での指導に生きるよう還元していきたい。

4 次年度への構想

今年度行った会の持ち方や時間設定については、ICTを活用するなどよりよい方法を検討し、今まで以上に研究委員同士の情報共有がスムーズにできるようにしたい。

令和7年度 書写教育研究部研修報告

磐周地区

1 研究テーマ／重点目標および設定の理由

(1) 研究テーマ

子供とつくる書写授業

～「何ができるようになったか」を子供が実感する書写授業を目指して～

(2) 設定の理由

現行学習指導要領では、これからの社会を創り出す子供たちが学校教育を通じて身に付けるべき資質・能力とは何かを明らかにした「学びの地図」としての枠組み作りが図られている。従来の「(子供が) 何を知っているか」「(教師が) 何を教えるのか」から転換し、「国語を何のために学ぶのか」「国語を学んでどんな力が身に付くのか」を教師も子供も理解した上での国語科の授業づくりが求められている。磐周地区の課題として、何のために書写を学ぶのかを理解していなかったり、整えて書こうとする意識が薄かったりする子供が多いことが挙げられる。そのような子供たちが、授業を通して「何ができるようになったか」を実感し、文字と生活、文字と文化の密接な関係に気付くことができれば、意欲を高めることができ、書字文化の担い手としての資質や能力を一層向上させようとする主体的な意識や態度も育むことができると考え、本テーマを設定した。

2 実施概要（経過および内容）

(1) 磐田地区、袋井森地区研修会【5月9日、6月13日、10月17日、1月16日】

グループ研修のテーマに基づいた教材研究や指導案・実践事例等を持ち寄った研修を行った。学年ごとの教材研究や話し合いを基に、次に活用できる教育実践について考える場となった。また、第4回では、水書体験を取り入れた。低学年で行われる水書の意義や取り組み方等について意見を交わした。

(2) 席書コンクール作品審査会【11月21日 参加者31人】

小中ともに各学年3人（1、2年生は2人）で審査を行った。14作品を「磐周特選」として選出し、県審査へ出品した。字形や筆遣い、接筆等に留意して審査を行った。授業実践に活かしていきたい。

(3) 書き初めコンクール審査会【1月13日 参加者30人】

各学年7点、特別支援学級は各学年1点を「磐周特選」として選出し、県審査へ出品した。筆順・筆脈・接筆等に留意するとともに、字形等の許容について共通理解した上で、「書写」という観点で審査を行った。

3 成果と課題

(1) 磐田地区、袋井森地区研修会

書写研究グループでは、「上手いかななくても、書くことを楽しめる授業」をテーマにデジタル教科書の活用等、実践研究に取り組んだ。また、水書体験では、低学年の書き初めと水書の関わり等活用の工夫について話し合うことができた。

(2) 席書コンクール作品審査会、書き初めコンクール作品審査会

審査経験の少ない教員と経験豊かな教員をペアにすることで、指導のポイントに関する研修になった。字形や運筆、筆脈、配列などについて、協議しながら審査を行うことができた。席書コンクールでは、中学校を中心に、県の優秀賞にふさわしい作品を14作品選出することに苦心していた。



4 次年度への構想

新学習指導要領の理念を押さえた書写指導について追究し、書字文化の担い手を育む書写教育について研修を行っていく。

また、夏季休業中に、元小学校教諭で、書写指導に定評のある方を講師に招き、席書コンクールの課題文字の書き方指導を受けたり、指導の方法について話し合ったりして、書写の指導力向上につなげたいと考える。

令和7年度 書写教育研究部研修報告

(湖西) 地区

1. 研究テーマ／重点目標および設定の理由

「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、

文字文化を大切に育てる子育てる書写教育」

新学習指導要領には、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう書かれている。毛筆・硬筆など書くことを楽しむ学習活動を中心に、学びを生活に生かす方法や逆に生活から書くことにフィードバックする方法を研究していく。

2. 実施概要（経過および内容）

6／11（水）…国語・書写合同で、国語科の授業を参観し協議を行った。

8／1（金）…講師を招いて国語科の授業を進める上で授業者のもつべき視点についてユーモアを交えてお話しいただいた。

11／14（金）…席書コンクールの市内優秀作品を審査するとともに、各学年の課題について研修を行った。

1／9（金）…書き初めコンクールの市内優秀作品を審査するとともに、各学年の課題について研修を行った。

3. 成果と課題

- ・湖西地区として、小学校の併合や他教科との兼ね合いもあり、書写部員の確保が年々難しくなっているという現状がある。本来であれば書写部単体で実技研修などが開かれるべきだが、多くの学校で国語部員と兼ねるようになっていて実現がなかなか難しい。今後も実技研修開催に向けて検討をしていく必要がある。
- ・今年度も審査会に高校の先生を招くことができなかったが、自分たちで指導のポイントについて話し合い、積極的に意見交換して審査することができた。
- ・市内の教育会館での作品展示もなくなり、児童の作品の称揚の機会が減っている。各校での展示や市内コンクールでの入賞数を増やすなどして、よい作品に出会う機会を増やしたり、児童の意欲を高めたりすることが必要である。

4. 次年度への構想

- ・静教研の発表に向けて取り組んでいく中で学んだことや見つかった課題を、地区全体で共有し、今後の研修に生かしていきたい。

第 75 回 静岡県席書コンクール 記録〈静岡地区〉

1 運営の実際

月	動き	備考
4	▶～中旬) 研修会①での提案内容の起案	・今年度の学生協のご担当は山梨誠様。 ・連絡系統は、【担当→担当地区副部長→部長→副部長→担当】の順。
5	▶研修会①) 原案の提案 ▶研修会①後) 学生協と入稿等のスケジュール確認 ⇒決裁後に要項を学生協担当者へメール送信 ・賞状の発注 ※部長対応	・研修会①時に指導(所属)学年の調査も行っておく。 ・要項は、何度かの校正の後、学生協より各地区教員代表の所属校宛てに7月1日付で配付される。
6	▶要項入稿後) 「評価のポイント」「出品票」「出品者名簿」等の作成	・研修会①を受け、必要に応じて修正する。
7 8	▶7月上旬) 「評価のポイント」「出品票」「出品者名簿」のデータ配付 ・7月下旬～8月上旬) 静教研準会員校である特別支援学校、私立学校へ要項等のデータ送付 ※担当地区副部長対応	・各地区へのメール配信は、部長の決裁後に【担当→事務長】へ依頼。 ※長期休業中に研修を行う地区があるため、この時期に配付する。 ・準会員校は、事務局または部長より知らされる。
9	▶～中旬) 研修会②での提案内容の起案	
10	▶研修会②) 評価会に関する具体の提案 ▶研修会②以後) 県評価会の運営準備 ⇒派遣依頼文書の送付依頼、運営冊子等の作成等	・必要に応じて物品の買い足しを行う。 領収書の宛名は「静岡県教育研究会書写教育研究部」。
11	▶中旬) 地区評価会の運営 ▶下旬) 県評価会の運営準備 ⇒出品者名簿の集約、キャプションの印刷、配付物の印刷、専門員(展示担当)への名簿および掲示(配布)物データ送付等	
12	▶上旬) 県評価会の運営 ▶評価会以後) 最優秀作品展案内文書の送付依頼 ▶評価会以後) 特別支援学校等への作品返却 ※担当地区副部長対応 ▶評価会以後) 県教育会館事務局への最優秀受賞者名簿のデータ送付 ・ギャラリー使用申し込み〈静岡地区校長代表〉	・学生協の持ち込み物は、コンテナに入った各地区の作品、文房具、最優秀作品の梱包箱。 ・作品搬入および展示作業(静岡地区)。 ・私立学校、特別支援学校等への作品返却は郵送で対応。
1	▶～中旬) 研修会③での報告内容(+地区研修報告書)の起案	・作品搬出および展示作業(静岡地区)。 ※作品は、次年度の11月頃に学生協様から各地区教員代表の所属校に届く。
2	▶書き初めコンクール評価会) 運営物品の受け取り ▶研修会③) 総括報告	・作品搬入および展示作業(静岡地区)。 ・作品搬出および展示作業(静岡地区)。 「次年度は引き継ぎのためのUSBおよび運営物品等を、書き初めコンクール評価会または研修会③で担当地区に渡す。」

2 参加数 計 135,310 点 [内訳：88,293(小学校)、47,017(中学校)]

通常の学級	1. 賀茂	2. 田方	3. 東豆	4. 三島	5. 駿東	6. 沼津	7. 富士	8. 静岡	9. 志太	10. 榛原	11. 小笠	12. 磐岡	13. 湖西	合計
小1	199	649	82	697	1663	1040	2508	3918	22	3	1502	150	311	12742
小2	206	688	96	758	1738	1052	2690	4089	22	3	1537	160	361	13400
小3	232	673	108	781	1713	1132	2761	4481	22	3	1591	170	390	14057
小4	266	794	111	779	1878	1144	2890	4610	22	3	1596	166	389	14648
小5	298	787	122	811	1872	1171	2878	4706	22	3	1714	164	415	14963
小6	326	855	129	846	1957	1205	3054	4719	22	3	1757	178	425	15476
中1	313	804	117	826	1813	1278	3043	4287	22	3	1687	146	449	14788
中2	356	848	132	898	1901	1249	3043	4546	22	3	1718	148	442	15306
中3	356	802	159	928	1925	1325	3081	4716	22	3	1719	148	467	15651

特別支援教育	1. 賀茂	2. 田方	3. 東豆	4. 三島	5. 駿東	6. 沼津	7. 富士	8. 静岡	9. 志太	10. 榛原	11. 小笠	12. 磐岡	13. 湖西	その他	合計
小1	8	21		29	76	15	71	145	2	1	20	30	26	1	445
小2	10	20	2	29	82	26	72	146	2	1	20	30	17	1	458
小3	5	18	3	21	71	38	91	174	2	1	19	30	29	0	502
小4	12	24	1	24	78	31	107	192	2	1	18	30	45	1	566
小5	7	25	1	36	75	37	100	167	2	1	17	30	37	0	535
小6	5	24	5	32	64	26	107	139	2	1	20	30	46	0	501
中1	10	14	2	21	46	50	103	118	2	1	11	44	28	0	450
中2	8	18	5	22	52	33	92	118	2	1	11	46	30	0	438
中3	5	21	3	15	50	30	95	79	2	1	9	46	28	0	384

【確認】この数字の用途は最優秀作品展の掲示(配布)物であることから、各地区における正確無比な把握を要するものではない。

3 当日の評価における振り返り

小1 「ぼくの…」 「おじいさんは…」	字が整い、正しく書けている作品が多かった。一年生とは思えないほど完成度が高く、中心線がそろっている作品が多かった。
小2 「学校に…」 「お正月に…」	丁寧に書かれた作品が多かった一方で、二度書きと思われる跡や、枠に接している字がある作品もあった。指導の中で気をつけるべき点として周知していきたい。
小3 「木」「大」	毛筆のとりかかりとして、始筆および終筆の指導を丁寧に行いたい。この題字においては、特に左払いを意識して指導したい。また、字形を整えることにも力を注ぎたい。
小4 「左右」	払いを正しく書けている作品が多かった。一方で、行の中心がずれている作品、終筆まで意識が続かない作品が多かった。

3 当日の評価における振り返り（続き）

小5 「成長」	教科書の基準文字と照らし合わせて評価したが、これをよく見て文字の大きさや配列に気を付けて書けていた作品が多かった。
小6 「感謝」「理想」	題字の見栄えに差があり、「理想」を選ぶのに苦労した。全体的によく書けていた。
中1 「日光」「栄光」	「栄光」の方が見栄えが良く、また難易度も異なると感じる。“光”の左払いと筆脈が難しそうだった。
中2 「雲海」「新緑」 「若緑」	題字が3種類のため、評価に苦労した。どの作品も丁寧に書けており、頑張りを感じられた。
中3 「輝ける未来」 「美しい自然」 「栄光の架け橋」	3年生らしく、書き慣れており筆遣いも上手であった。一方、敷き写しと思われるもの、折れ線が16分割もされたものがあった。題字が3種類のため、見栄えに差があり評価が難しかった。
特別支援学校・ 学級	全体的に上手な作品が多かった。

4 運営における反省（○成果 ●課題 ・備忘録 ⇒次年度に向けた対応策）

事前

- 要項に誤りおよび不備があった。

⇒連絡系統を担当→副部長→部長→副部長→担当とし、次年度の確実な配布に努めます。

- 出品者名簿、派遣依頼文書等が届いていなかった。

⇒評価会当日に参加のない校長代表に宛てても「校長代表の先生方における参加はありませんが、確認の意を込めて送付しています。」等の一言を添えて、事務局からメール配信していただくのが良いと考えています。

- 各地区名簿が作品に添えられていない地区があった。

⇒午前の部は担当地区および代表(部長、副部長)、事務局(事務長、会計主任)、本部専門員のみ運営となり、不備等が生じた場合の確認が特に難しいため、出品者名簿の注意事項をお読みの上、確実な名簿の添付をお願いします。

- ・作品は、黒色のコンテナを使い学生協に提出する（提出されたままの(コンテナに入った)状態で届くよう、山梨様が学生協内で共通理解が図ってくださる）。
- ・氏名の評価については「評価のポイント」にある通り、“氏名については規定に則って書かれていれば、それ以上の審査の対象にはしない。並んだ場合は配慮対象とする。”を県評価会における見解とする。
- ・引き続き、出品作品としてふさわしい文房具を推奨していく（極端に薄い半紙、インク系の墨汁は控えたい）。

- ・ 静教研HPに掲載されている要項を見た書道塾から、課題文字が昨年度までと異なる点について問い合わせが3件あったため、上級生においては旧の教科書を使用する旨について説明した。

当日

- 事前準備（キャプション、最優秀賞受賞者への茶封筒）があったため、評価後の作品処理作業が大変円滑になり、また負担も減った。
⇒茶封筒は処理作業の終盤に使う物ですが、キャプションは序盤に使う物であるため、次年度も引き続き評価開始段階で配付予定です。
- 書き初めコンクール比で約2倍の提出数だったため数が多いと感じた。県優秀賞未満の賞を設けてはどうか。
⇒要項に記載された数よりも少ない数での提出を判断した地区がありました。各地区からの作品提出数や称揚の仕方等については、部長および副部長等で検討していただいた後、次年度の研修会①で提案します。
- 評価自体に時間がかかった。
⇒今年度は書き初めコンクール並みの時間設定だったため、評価自体に時間がかかってしまい、午前の部は+45分、午後の部は+30分でした（午後の部に関しては、事務長が両面テープのカット作業を全学年分行ったことが大きいと推察）。そのため、予定していた調査研究活動としての作品を見合う時間を設けることができませんでした。今年度の反省と次年度の提出数を踏まえてタイムスケジュールを組みます。また、特支の部については、便宜上、小学校と中学校に分かれて評価を進めることが多いため、可能であれば計4人の配置が必要でした。
- 学年によっては課題文字が異なっていたため、公正に評価することが難しかった。
⇒異なる題字または題字は同じだが崩し方が異なる場合であっても妥当な評価ができるよう、引き続き汎用性の高い「評価のポイント」を活用していくとともに、よりよい内容になるよう見直していきます。
- 参加者の持ち込みでは3社の教科書が揃わなかったため、評価に支障が出た。
⇒従前は地区ごとの別開催だったため賄えました。次年度の派遣依頼文書には、自校の教科書を持参するよう持ち物欄に記載しました。加えて、担当地区では教育センター等で当該教科書を借りる等の準備を行います。（お詫び：今年度の課題文字選定に際し、書写部の予算で教科書を購入してありました。すべて小学校で、光村1～6年、教出1～5年、東書2, 4, 6年）
- その年度の担当地区の裁量で作品処理の方法が変わる場合があるか、また、担当地区が変わったときのPC作業が心配である。
⇒担当地区が持ち回りになりましたが、書き初めコンクールの県評価会に倣う形で参加者の中からPC作業担当として役割をつけるのも良いと考えます。今年度の様子からは、事前のキャプション印刷および当日の茶封筒の宛名印刷が適切だと感じましたが、今後の実情に応じて見直す等、柔軟に対応していくのが良いと考えます。

当日（続き）

●評価の優劣に迷った場合の最終判断者は誰か。

⇒従前は書写を専門とする方が部長を務めることが多かったようですが、今年度以降は持ち回りであることを踏まえると、当該学年の担当者内で評価をつけることを基本としつつ、必要に応じて部長や副部長および他学年担当の審査員を呼んで協議するのが良いと考えます。また、当日の評価会では、「評価のポイント」の内容に関する意見を聞く機会があまり設けられなかったため、今後の各地区から県までの指導および評価時においてより意識して取り組み、気づいた点等があれば研修会や評価会で話題にしていく旨について、羽山部長からお話がありました。

●地区名等の出品者情報の不備、名札の取り付け方の誤りが一部あった。

⇒各校において正しく処理されるよう、各地区でわかりやすい説明および周知に引き続き努めていきましょう。出品票については、次年度以降は全県で統一することを研修会②で確認しました。Word版でなく Excel 版を用いる予定です。なお、各地区において優秀賞未滿の賞を設置する場合に備えて、空欄を一つ設けてあります。

●敷き写しと疑われる作品があった。

⇒引き続き未然防止のための各校への周知と、地区ごとの評価会における判別に努めていきましょう。

・作品台紙へのマーキング方法は、次年度も千枚通しとする（学生協さんのご厚意による）。

・各地区で使っていた文具等の物品を整理したため、当年度の書き初めコンクール評価会以降で用いる。

・浜松地区の特別支援学校から提出があった場合、県評価会開始前に事前評価を本部で行い、県評価に混ざるか否かを判断する（令和7年度は校内称揚とした）。

・学生協さんのご厚意で教員代表の所属先まで作品を届けてもらえるため、各学校への返却は各地区の責任において行う。

事後

●特別支援学校・学級の部に通常の学級の作品が混じっており、結果的に最優秀作品に選出されてしまった。

⇒地区の評価会においては、評価前に確実な照合を行い、その後の名簿作成等の諸作業段階で再度確認を行っていきましょう。県の評価会においては、地区から提出された名簿と作品との照合前の、コンテナから作品を出して並べる段階で一度確認を行いきましょう。

●各地区に配付された賞状が足りなくなった。

⇒担当地区から他地区へ郵送(定形外にて450円)しました。今年度、賞状の配付枚数は“各地区の学校数+規模に応じた5~25枚”としましたが、次年度は予算と折り合いがつけば多めに配付したいです。なお、担当地区および特別支援学校からの出品がある地区については多めに配付していません。

「第75回静岡県席書コンクール」 最優秀賞受賞者

2025/12/19

各学年20点

小学校の部

第1学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	三島市立向山小学校	松田 和也	三島
2	三島市立北小学校	太田 紗愛	三島
3	御殿場市立朝日小学校	山中 葵衣	駿東
4	裾野市立東小学校	吉田 陽葵	駿東
5	御殿場市立富士岡小学校	渡辺 彩楓	駿東
6	伊豆の国市立藤山南小学校	山口 凜	田方
7	沼津市立門池小学校	加藤 蓮	沼津
8	沼津市立鷺西小学校	泉 真衣子	沼津
9	富士宮市立富士見小学校	佐野 孝太郎	富士
10	富士市立伝法小学校	石川 樹	富士
11	静岡市立清水飯田東小学校	高田 零月	静岡
12	静岡市立長田南小学校	石上 さわ	静岡
13	静岡市立長田西小学校	根本 香濃	静岡
14	静岡市立西奈小学校	澤 杏奈	静岡
15	静岡市立森小学校	藤田 侑奈	静岡
16	島田市立第一小学校	原水 早由來	志太
17	牧之原市立相良小学校	堀玉 翔悟	榛原
18	菊川市立堀之内小学校	川又 暁陽	小笠
19	函南町立桑村小学校	飯塚 美夢	田方
20	静岡市立井宮小学校	大垣 結人	静岡

第2学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	三島市立北小学校	阪地 藍乃	三島
2	三島市立北小学校	津田 青葉	三島
3	三島市立南小学校	杉江 初音	三島
4	沼津市立香貴小学校	鈴木 心彩	沼津
5	富士宮市立東小学校	澤田 花葉	富士
6	富士市立富士第一小学校	清水 明瑠	富士
7	静岡市立南南小学校	中村 晏丞	静岡
8	静岡市立鷺西南小学校	山田 史登	静岡
9	静岡市立大里西小学校	大場 奏心	静岡
10	静岡市立西農田小学校	那須 琴心	静岡
11	焼津市立焼津西小学校	渡辺 琴葉	志太
12	藤枝市立広橋小学校	野村 陽貴梨	志太
13	藤枝市立高洲南小学校	柳澤 咲花	志太
14	藤枝市立藤岡小学校	洞口 奏結	志太
15	掛川市立城北小学校	三井 日菜子	小笠
16	掛川市立西山口小学校	芳賀 楓真	小笠
17	磐田市立豊岡西小学校	中村 心葵	磐岡
18	袋井市立浅羽南小学校	丸山 純	磐岡
19	南伊豆町立南上小学校	肥田 生吹	賀茂
20	長泉町立長泉小学校	松永 悠愛	駿東

第3学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	下田市立福生沢小学校	金澤 凜	賀茂
2	伊豆市立土肥小中一貫校	福室 陽太	田方
3	伊東市立八幡野小学校	太田 陽咲	東豆
4	伊東市立南小学校	鈴木 かりん	東豆
5	清水町立清水小学校	山本 恵理	駿東
6	富士市立富士見台小学校	深澤 竣太郎	富士
7	静岡市立伝馬町小学校	長野 結	静岡
8	静岡市立大里西小学校	山下 陽向	静岡
9	清水町立清水小学校	山本 恵理	駿東
10	静岡市立横内小学校	田中 亮晃	静岡
11	静岡市立清水駒越小学校	松田 滯	静岡
12	静岡市立西奈小学校	吉田 樹丞	静岡
13	焼津市立焼津西小学校	中野 彰太	志太
14	藤枝市立青島小学校	大淵 ゆうか	志太
15	焼津市立焼津西小学校	鈴木 希	志太
16	藤枝市立藤枝中央小学校	小長谷 菜生	志太
17	掛川市立横須賀小学校	横山 咲月	小笠
18	袋井市立浅羽南小学校	安開 悠翔	磐岡
19	沼津市立原小学校	高橋 杏濃	沼津
20	牧之原市立川崎小学校	シラベ カイオ	榛原

第4学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	南伊豆町立南伊豆東小学校	平山 愛莉	賀茂
2	下田市立白浜小学校	土屋 ほむら	賀茂
3	河津町立河津小学校	高木 海翔	賀茂
4	伊豆の国市立藤山南小学校	藤藤 千紗	田方
5	伊豆の国市立藤山南小学校	清野 未波	田方
6	富士宮市立東小学校	飯田 愛梨花	富士
7	静岡市立森小学校	山崎 紗愛	静岡
8	静岡市立清水辻小学校	橋詰 心晴	静岡
9	静岡市立由比小学校	大淵 桃李	静岡
10	静岡市立千代田小学校	久保田 帆乃花	静岡
11	静岡市立清水船越小学校	小泉 理夏	静岡
12	島田市立初倉小学校	瀧美 翠心	志太
13	島田市立大津小学校	河本 あさひ	志太
14	藤枝市立大洲小学校	市川 景青	志太
15	藤枝市立大洲小学校	石神 結心	志太
16	川根本町立三ツ星学園	園田 陽葵	榛原
17	川根本町立三ツ星学園	橋畑 沙和	榛原
18	磐田市立福田小学校	石津 はる	磐岡
19	静岡市立西農田小学校	田上 理彰	静岡
20	島田市立大津小学校	柳田 悠斗	志太

第5学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	下田市立白浜小学校	野中 優心	賀茂
2	伊豆の国市立長岡南小学校	芹澤 菜月	田方
3	長泉町立南小学校	駒井 萌々果	駿東
4	長泉町立長泉小学校	井上 博雅	駿東
5	富士宮市立大富士小学校	小林 楓葉	富士
6	静岡市立清水有度第二小学校	天野 衣都	静岡
7	静岡市立清水小島小学校	福重 朱美	静岡
8	常葉大学教育学部附属橋小学校	池田 瑠璃	静岡
9	静岡市立奈小学校	公森 桜	静岡
10	静岡市立大里西小学校	山崎 あんず	静岡
11	藤枝市立築製小学校	伊久美 優里	志太
12	島田市立初倉小学校	川田 彩葉	志太
13	島田市立初倉南小学校	樋口 真穂子	志太
14	藤枝市立青島北小学校	村越 颯	志太
15	吉田町立中央小学校	堀江 優音	榛原
16	菊川市立小笠北小学校	山本 早桜	小笠
17	御前崎市立御前崎小学校	赤澤 初哉	小笠
18	袋井市立袋井西小学校	平井 優花	磐岡
19	島田市立初倉小学校	木谷 敏之介	志太
20	湖西市立岡崎小学校	木村 稔成	湖西

第6学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	下田市立福生沢小学校	田力 美空	賀茂
2	下田市立福生沢小学校	吉田 歩愛	賀茂
3	下田市立福生沢小学校	金澤 杏	賀茂
4	河津町立河津小学校	関 美和里	賀茂
5	伊豆の国市立長岡南小学校	中川 遙乃	田方
6	三島市立南小学校	関 美紗都	三島
7	三島市立南小学校	川瀬 はな	三島
8	富士市立田子浦小学校	石塚 結衣	富士
9	静岡市立清水小学校	望月 里南	静岡
10	静岡市立宮竹小学校	田形 和花	静岡
11	藤枝市立藤枝小学校	山田 鮎代	志太
12	焼津市立焼津西小学校	朝比奈 湊	志太
13	焼津市立豊田小学校	平岩 心華	志太
14	島田市立第一小学校	高橋 琴子	志太
15	島田市立初倉小学校	後藤 美緒	志太
16	掛川市立西郷小学校	半田 心葵	小笠
17	磐田市立豊岡南小学校	坂上 莉音	磐岡
18	磐田市立豊岡北小学校	西田 琴音	磐岡
19	富士市立富士第一小学校	森下 あいみ	富士
20	湖西市立鷺津小学校	佐藤 遼介	湖西

「第75回静岡県席書コンクール」 最優秀賞受賞者

2025/12/19

各学年20点

中学校の部

第1学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	下田市立下田中学校	西川 さくら	賀茂
2	河津町立河津中学校	高木 そら	賀茂
3	熱海市立熱海中学校	中山 葉々花	東豆
4	富士市立鷹岡中学校	徳田 花歩	富士
5	静岡市立清水第六中学校	酒井 唯愛	静岡
6	静岡市立清水第七中学校	山本 玲空	静岡
7	静岡市立清水第七中学校	山田 結葉	静岡
8	静岡市立長田西中学校	伊谷 結夢	静岡
9	静岡市立城内中学校	山崎 結夢	静岡
10	焼津市立大村中学校	小林 美月	志太
11	焼津市立東益津中学校	望月 優羽	志太
12	藤枝市立青島北中学校	山本 陽葵	志太
13	島田市立初倉中学校	村松 メイ	志太
14	静岡大学附属島田中学校	齋藤 こはる	志太
15	川根本町立光の森学園	小澤 蒼	椽原
16	掛川市立東中学校	土井 真央奈	小笠
17	袋井市立浅羽中学校	平野 真愛	静岡
18	磐田市立磐田第一中学校	引馬 優和	静岡
19	御殿場市立南中学校	佐藤 あいさ	駿東
20	焼津市立大井川中学校	小林 真輝	志太

第2学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	伊東市立宇佐美中学校	秋山 美澄	東豆
2	御殿場市立南中学校	土田 瑠璃	駿東
3	裾野市立高岡中学校	近藤 あかり	駿東
4	清水町立南中学校	渡邊 景祈	駿東
5	沼津市立第五中学校	内藤 留衣	沼津
6	沼津市立浮島中学校	鈴木 花音	沼津
7	富士市立吉原第一中学校	奥津 美湖	富士
8	静岡市立安倍川中学校	長谷川 莉乃	静岡
9	静岡市立東農田中学校	石塚 心真	静岡
10	静岡市立清水庵原中学校	山河 美慧	静岡
11	島田市立初倉中学校	神田 果那	志太
12	島田市立六合中学校	藤山 さくら	志太
13	島田市立第一中学校	横田川 奈美	志太
14	島田市立初倉中学校	田島 凜子	志太
15	掛川市立栄川中学校	松原 里紗	小笠
16	掛川市立大須賀中学校	池田 羽奈	小笠
17	磐田市立豊岡中学校	鈴木 唯白	静岡
18	湖西市立岡崎中学校	大羽 柚希	湖西
19	清水町立清水中学校	芦川 琴音	駿東
20	袋井市立岡南中学校	村松 昂	静岡

第3学年

整理No.	学校名	氏名	地区名
1	下田市立下田中学校	鈴木 雅乃	賀茂
2	下田市立下田中学校	平山 穂葉	賀茂
3	下田市立下田中学校	関 くるみ	賀茂
4	河津町立河津中学校	山本 紗良	賀茂
5	御殿場市立原里中学校	長田 美波	駿東
6	沼津市立第四中学校	野田 芽吹希	沼津
7	沼津市立金岡中学校	伊藤 紫野	沼津
8	静岡市立中島中学校	中島 花夏	静岡
9	焼津市立大井川中学校	山下 莉愛	志太
10	藤枝市立環梨中学校	秋山 友咲	志太
11	静岡大学附属島田中学校	市川 紗季	志太
12	菊川市立菊川西中学校	近藤 椋音	小笠
13	掛川市立大須賀中学校	森 こゆず	小笠
14	掛川市立北中学校	平野 杏莉	小笠
15	掛川市立西中学校	伊藤 帆花	小笠
16	学校組合立御前崎中学校	沖 美織奈	小笠
17	磐田市立磐田第一中学校	塚本 幸那	静岡
18	森町立旭が丘中学校	武田 一妻	静岡
19	清水町立南中学校	山田 朱音	駿東
20	静岡市立東中学校	小野田 百杏	静岡

令和8年2月吉日

各学校長 様
書写主任 様

静岡県教育研究会会長 北川 和彦
同 書写教育研究部長 羽山 和美

「静岡県席書コンクール」最優秀賞作品の展示について（お知らせ）

日頃より本研究部の活動について御理解、御協力いただきありがとうございます。本年度の静岡県席書コンクールは、これまでの審査方法を変えて行いましたが、皆様の御協力により、滞りなく終えることができました。

さて、本審査により選ばれた最優秀賞作品の展示についてですが、これまで、静岡県教育会館を会場に展示させていただいた後、翌年に開催される夏季研究大会会場に再度展示させていただいておりました。しかしながら、これまで課題となっていた、その日までの保管や返却の難しさから、また、壁面への貼付ができず展示の仕方に苦慮した会場もあったことから、本年度より静岡県教育会館での展示終了後、作品を返却させていただくこととしました。皆様には急なお知らせとなり、御迷惑をおかけしますが、本年度以降、このような対応といたします。御理解いただけますようお願い申し上げます。

また、最優秀賞受賞者の御家庭には、夏季研究大会の会場に展示予定であること、返却は次年度の12月頃になることを通知しています。そこで、最優秀賞受賞者の在籍校におかれましてはお手数となりますが、御家庭へ児童生徒を通じて別添通知を配付して、お知らせさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

なお、このような対応をとることにより、本年度の最優秀賞受賞者の在籍校へ作品を返却いたします。返却された作品については、可能な限り各校にて御紹介していただき、当該児童生徒へ返却していただきますようお願いいたします。

ご不明な点がありましたらお問い合わせください。

問い合わせ先

静岡県教育研究会書写教育研究部

部長：羽山 和美（焼津市立大井川東小学校）

TEL 054-622-0010

FAX 054-622-7910

担当：小倉 拓海（静岡市立蒲原中学校）

TEL 054-385-4115

FAX 054-385-4116

令和8年2月吉日

第75回静岡県席書コンクール
最優秀賞受賞者の皆様
同 保護者 様

静岡県教育研究会会長 北川 和彦
同 書写教育研究部長 羽山 和美

「静岡県席書コンクール」最優秀賞作品について（お知らせ）

本年度のコンクールにおける最優秀賞受賞、誠におめでとうございます。

受賞された作品を静岡県教育会館にて展示させていただいたところ、たいへん多くの方々会場に足を運んでくださいました。

さて、これまで最優秀賞に選ばれた作品は、通知させていただいたように、次年度開催される静岡県教育研究会書写教育研究部夏季研究大会の会場に展示され、その年の12月頃に学校を通じて返却しておりました。しかしながら、会場によってはスペースがなく展示されなかったり、返却が翌年になるため、卒業生への返却が困難であったりする課題が出ております。

そこで、本年度より最優秀賞作品については、確実に御本人様に返却できるよう、次年度の展示をやめ、本年度中に返却させていただくこととしました。このような変更により、作品が学校を通じて返却されますので、予め御了承ください。

急なお知らせのため、御迷惑をおかけすることとなりますが、御理解いただきますようお願い申し上げます。

令和7年度（書写教育）研究部 決算書（案）

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
研究部費	500,000	500,000	0	
雑収入	0	122	122	
計	500,000	500,122	122	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考	
A 研究大会費	1 謝金	60,000	50,000	-10,000	講師 50,000円×1人
	2 旅費	80,000	22,210	-57,790	講師 3,280円 役員 18,930円
	3 借料・損料	30,000	104,500	74,500	撮影配信代
	4 資料費	30,000	0	-30,000	
	5 通信運搬費	130,000	2,310	-127,690	郵送料、切手代、振込手数料
	6 賃金	0	0	0	
	7 需用費	10,000	5,189	-4,811	消耗品、通帳（大会）手数料等
	小 計	340,000	184,209	-155,791	
B 調査研究費	1 謝金	0	0	0	
	2 旅費	0	4,209	4,209	役員 4,209円
	3 借料・損料	0	0	0	
	4 資料費	5,000	0	-5,000	
	5 通信運搬費	5,000	0	-5,000	
	6 賃金	0	0	0	
	7 需用費	0	0	0	
	小 計	10,000	4,209	-5,791	
C 研究成果刊行費	1 旅費	0	0	0	
	2 借料・損料	0	0	0	
	3 資料費	0	0	0	
	4 通信運搬費	5,000	0	-5,000	
	5 賃金	0	0	0	
	6 需用費	0	0	0	
	小 計	5,000	0	-5,000	
D 研究用図書購入費			0		
E A+B+C	355,000	188,418	-166,582		
F 研究部内の会議費等	145,000	20,831	-124,169	会議室利用料等	
G 総 計	500,000	209,249	-290,751		

残金の 290,873 円は、静教研事務局へ返納しました

令和7年度 書写教育 研究部 調査研究活動費 決算書(案)

調査研究活動名 (席書コンクール)

科 目		予算額(円)	決算額(円)	積 算 内 容
調 査 研 究 活 動 費	1 謝金	0	0	
	2 旅費	70,000	45,000	作品展示・撤去作業旅費
	3 借料・損料	0	23,300	会場借料
	4 資料費	0	0	
	5 通信運搬費	3,000	2,030	郵送料
	6 賃金	0	0	
	7 需用費	200,000	181,320	賞状、要項、作品台紙、消耗品等
	計	273,000	251,650	
	総 計	273,000	251,650	

令和7年度 書写教育 研究部 調査研究活動費 決算書(案)

調査研究活動名 (書き初めコンクール)

科 目		予算額(円)	決算額(円)	積 算 内 容
調 査 研 究 活 動 費	1 謝金	0	0	
	2 旅費	40,000	39,300	作品展示・撤去作業旅費
	3 借料・損料	0	0	
	4 資料費	0	0	
	5 通信運搬費	0	0	
	6 賃金	0	0	
	7 需用費	70,000	66,503	賞状、要項、作品台紙。課題文字手本、消耗品等
	計	110,000	105,803	
	総 計	110,000	105,803	

令和 8 年度 書写教育 研究部 事業計画書 (案)

静教研三大事業

研 究 大 会	開催方法	「集合開催」「オンデマンド配信」				
	日 時	【集合開催】 令和 8 年 8 月 5 日 (水) 12 時 30 分～16 時 00 分 【オンデマンド配信】 令和 8 年 8 月 6 日 (木)～ 未定				
	会 場	【集合・配信開催】 静岡県教育会館すんぷらーざ 【オンデマンド】 各小中学校				
	参加者数		分科会数	なし	実践発表者数	2 人
	内 容	開会式 実践発表 ①藤枝市立葉梨西北小学校 ○○○○ 教諭 ②川根本町立光の森学園 諸田朱美 教諭 ・全体会 ・講演会 講演 実践発表指導講評を兼ねる 学校法人法城学園こばとこども園 前園長 紅林定宏 氏 ・分科会 等の概要 閉会式				
調 査 研 究 活 動	事業名	実施内容 (実施日・会場・内容等)			参加者・人数等	
	席書コンクール 書き初めコンクール	作品評価会 (12 月〇日・審査) 県教育会館にて最優秀受賞作品展 【期間：後日】 作品評価会 (2 月・審査) 県教育会館にて最優秀受賞作品展 【期間：後日】			参加人数 140, 000 点 最優秀作品 180 点	
研 究 成 果 刊 行	刊行物名	内 容			刊行部数・頒布先・方法等	
	「書写研」	・事業報告 ・夏季研究大会実践報告資料 ・各地区の研修報告 ・席書コンクールの成果と課題 ・書き初めコンクールの成果と課題			書写研 書写研究部員 静教研 HP に掲載	

研究部内の会議 (研究部委員研修会) 等

予定日時	会場・方法	事業計画の概要	参加予定人数
5 月 19 日	県教育会館	第 1 回 書写教育研究部委員研修会	40 人程度
10 月 6 日	県教育会館	第 2 回 書写教育研究部委員研修会	40 人程度
2 月 19 日	県教育会館	第 3 回 書写教育研究部委員研修会	40 人程度

令和8年6月10日

関係所属長様
各小・中学校長様
義務教育学校長様
各研究部員様

静岡県教育研究会会長 北川 和彦
同書写教育研究部部長 大村 慎一
同研究大会実行委員長 尾崎 未希

静岡県教育研究会書写教育研究部夏季研究大会のご案内（案）

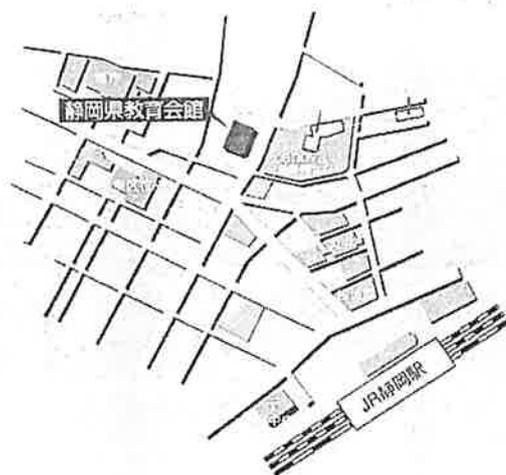
- 1 方法 集合開催・オンデマンド配信
- 2 期 日 【集合開催】令和8年8月5日（水）
【オンデマンド配信】令和8年8月6日（木）～ 日（ ）
- 3 会 場 【集合開催】静岡県教育会館すんぷら一ざ（配信会場を兼ねる）
静岡県葵区駿府町1-12
【オンデマンド配信】各学校
- 4 主 催 静岡県教育研究会・同書写教育研究部
- 5 後 援 静岡県教育委員会
- 6 研究主題 「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切にする子を育てる書写教育」
- 7 日 程 12:30～12:55 会場受付
13:00～13:10 開会式
13:15～14:00 実践発表
・発表1 テーマ「（未定）」
藤枝市立葉梨西北小学校 ○○ ○○ 教諭
・発表2 テーマ「（未定）」
川根本町立光の森学園 諸田 朱美 教諭
14:00～14:15 （休憩）
14:15～15:45 講演（実践発表の指導助言を兼ねる）
15:55～16:00 閉会式

8 講演 演題 「(仮題) 文字文化の継承につながる書写学習の在り方を考える」
講師 紅林 定宏 氏 (学校法人法城学園こばとこども園前園長)

9 参加申込

- ・静教研ホームページで、令和8年6月15日(月)から7月21日(火)の間に行く。
※参加申込は、静教研ホームページへの「会員登録」が必要になります。
詳細は「研究冊子第57-1号兼静教研だよりN0137」の6ページで確認願います。
- ・期限を過ぎてからの申込については、原則受け付けません。オンデマンド配信または紙上配信での参加をお願いします。

10 会場案内図



11 その他

- ・当日の資料は静教研ホームページより、各自印刷等をして参加してください。
- ・開催方法や内容の変更、参加にあたっての追加連絡等は、すべて「静教研ホームページ」に掲載しますので、各自で確認願います。
- ・大会の当日、記録係が撮影した写真を成果刊行物等に利用することがあることをご了承ください。(ホームページには掲載しません)

12 問い合わせ

大会事務局長	小倉 拓海	(静岡市立蒲原中学校 教諭)
TEL	054-385-4115	FAX 054-385-4116
大会実行委員長	尾崎 未希	(静岡市立足久保小学校 校長)
TEL	054-296-0051	FAX 054-296-1857

第76回 静岡県席書コンクール要項

1 目的

- ◎児童生徒の書写能力の向上を目指す。
- ◎教職員の指導力向上を目的とし、授業を振り返る資料とする。

2 実施方法

- (1) 各地区（県内13地区）で定められた期日までに各校で実施し、授業中に試し書き（練習）とまとめ書き（清書）をする。
- (2) 小1～中3、各学校単位の参加とする。

3 地区審査(評価)

- (1) 各地区の審査会において各校から出品された作品のうち、児童生徒数の比率によって定められた各地区規定の点数（連絡事項に記載）以内を選出する。
- (2) 地区での選出経過や方法は、各地区の裁量とする。ただし、選出経過については、本部へ報告できるようにしておく。

4 県審査(賞)

- (1) 各地区から選出された各学年160点以内（特別支援は別に各学年20点以内）を「優秀賞」とする。さらに、「優秀賞」の中から各学年20点（うち2点は特別支援）を選定し、「最優秀賞」とする。
- (2) 「最優秀賞」「優秀賞」には、静岡県教育研究会書写教育研究部から賞状を授与する。
- (3) 「最優秀賞」の作品は、展覧会を開き広く一般に公開する。

5 課題・書体

- ・小学生は楷書、中学生は行書とし、下記のように各学年の課題を定める。
 - ・小1～小2は硬筆、小3～中3は毛筆とする。
 - ・作品には学年と氏名を書く。学年の書き方は、各校で使用している表記としてよい。
- （例：中学校1年生→7年）

学 年	光村図書	教育出版	東京書籍
小学校1年生	ぼくのすきなことは… (P.22)	おじいさんは、かぶを… (P.19)	
小学校2年生	学校にツバメが… (P.34)	お正月に、妹と… (P.28)	
小学校3年生	木 (P.31)	大 (P.19)	
小学校4年生	左右 (P.13)	左右 (P.22)	
小学校5年生	成長 (P.17)	成長 (P.16)	
小学校6年生	感謝 (P.36)	理想 (P.43)	
中学校1年生	日光 (P.61)	栄光 (P.46)	日光 (P.29)
中学校2年生	積雲 (P.68)	深緑 (P.68)	若緑 (P.49)
中学校3年生	輝ける未来 (P.103)	美しい自然 (P.96)	栄光のかけ橋 (P.86)

6 連絡事項

(1) 各地区の1学年あたりの「優秀賞」選出点数

地 区	出品点数 (特別支援)	地 区	出品点数 (特別支援)
加 茂	4 (1)	静 岡	3 6 (2)
田 方	6 (1)	志 太	2 2 (2)
東 豆	6 (1)	榛 原	6 (1)
三 島	6 (1)	小 笠	1 0 (2)
駿 東	1 4 (2)	磐 周	1 4 (2)
沼 津	1 0 (2)	湖 西	4 (1)
富 士	2 2 (2)	計	1 6 0 (2 0)

(2) 各地区からの作品の提出方法

- ・各地区で取りまとめた作品は、令和8年11月 日()までに最寄りの学生協に提出し、県学生協連合会に搬入する。または、審査会当日の各地区教員代表が持参する。
- ・基本、規定の出品一覧表、出品票を使用し、間違いのないように確認する。

(3) 県審査会の持ち方

- ・日 時：令和8年12月4日(金) 9:30～(小学校3～6年生、特別支援)
13:30～(小学校1～2年生、中学校1～3年生)
- 会 場：静岡県教育会館4階大会議室ほか(静岡市葵区駿府町1-12)
- 審査員：正副部長、事務局、各地区教員代表、本部専門員
- ・審査後、所定の台紙に貼り展示準備を行う。

(4) 最優秀作品展

- 【会 期】令和8年12月19日(土)～令和8年1月16日(土) ※最終日は15:00まで
 開館時間：平日8:30～21:00 土曜日9:00～17:00
 休 館 日：12月20日(日)、12月29日(火)～1月4日(月)、1月11日(月)
- 【会 場】静岡県教育会館ギャラリー
 展示作業…12月18日(金)17:00～
 片付作業…1月16日(土)～17:00

問い合わせ先

静岡県教育研究会書写教育研究部

部長：大村 慎一(三島市立坂小学校)

TEL 055-971-1231

FAX 055-976-4369

担当：小倉 拓海(静岡市立蒲原中学校)

TEL 054-385-4115

FAX 054-385-4116

静岡県席書コンクール評価会

R8.12.○

- I 全体会 9:30～9:40 (午後の部 13:30～13:40) 司会 ()
- 1 開会の言葉 (司会)
 - 2 部長挨拶 (部長 校長)
 - 3 審査の手順 (事務局)
 - ① 各学年、地区ごとの名簿と出品作品の照合をする。
 - ・学年 160 点、特別支援は 20 点
 - ② 各学年、出品作品を評価し、「最優秀 18 点」を選出する。特別支援は、「最優秀 2 点」を選出する。
 - ③ 審査の振り返りをする。
 - ・作品の出品票に賞ごと○印をつける。
 - ・各地区の名簿に賞を記入する。
 - ・最優秀賞名簿に「地区名」「学校名」「氏名」を記入し、本部に提出する。
 - ・最優秀賞作品を台紙に貼る。
 - ・最優秀賞以外の作品と名簿を地区ごとに返却する。
 - ・最優秀賞者に配付する展示会通知封筒を作成し、地区ごとに配付する。
- II 評価 9:40～11:30 (午後の部 13:40～15:30) 1
- 各学年評価
 - <午前の部> 小学校 3～6 年、特別支援
 - <午後の部> 小学校 1・2 年、中学校
 - 事務局 (4F 大会議室)
 - ・賞状を地区ごとに配付する。
 - ・最優秀賞者名簿の作成
- III 全体会 11:30～11:45 (午後の部 15:30～15:45) 司会 ()
- 1 評価の振り返り (事務局)
 - 2 評価を終えて (副部長 校長)
 - 3 閉会の言葉 (司会)

IV 各地区の作業

VI 審査員構成（例）

(1) <事務局>担当副部長、担当教員代表、(部長)

<学年担当>

	学 年	審 査 員		人数
小 学 校	1年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	2年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	3年	各地区代表教員 2	本部役員 1	3人
	4年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	5年	各地区代表教員 2	本部役員 1	3人
	6年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
中 学 校	1年	各地区代表教員 2	本部役員 1	3人
	2年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	3年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	特別支援	部長 1、副部長 1、代表校長 1		3人
	計	15人		30人

(2) <事務局>担当副部長、担当教員代表、(部長)

<学年担当>

	学 年	審 査 員		人数
午 前	小3		本部役員 3	3人
	小4		本部役員 3	3人
	小5		本部役員 3	3人
	小6		本部役員 3	3人
	特別支援	部長 1、副部長 1、代表校長 1		3人
午 後	小1	各地区代表教員 3		3人
	小2	各地区代表教員 3		3人
	中1	各地区代表教員 3		3人
	中2	各地区代表教員 3		3人
	中3	各地区代表教員 3		3人
	計	18人		30人

第 20 回 静岡県小中学校児童生徒書き初めコンクール要項

令和 8 年 5 月 日

1 目的

◎わが国伝統の書き初めを通して、児童生徒が文字文化を体験し、書写能力の向上を目指す。

2 実施方法

- (1) 年末年始の各学校での指導で、規定の課題による作品づくりをする。
- (2) 小 1 ～中 3、各学校単位とする。

3 地区審査(評価)

- (1) 各地区で行っている審査会(評価会)において各学校から出品された作品の中から、児童生徒数の比率によって定められた、各地区規定の点数(連絡事項に記載)以内を選出する。
- (2) 地区(県内 13 地区)での選出経過や方法は、地区の審査会の実情によって行う。ただし、選出経過については、本部に報告できるようにしておく。

4 県審査(賞)

- (1) 各地区から選出された各学年 80 点以内(特別支援は各地区学年 1 点以内)を「優秀賞」とする。「優秀賞」の中から各学年 8 点(うち 1 点は特別支援)を審査によって選定し、「最優秀賞」とする。
- (2) 「最優秀賞」「優秀賞」には、静岡県教育研究会書写教育研究部から賞状を授与する。
- (3) 「最優秀賞」の作品は、展覧会を開き広く一般に公開する。

5 課題・書体

- ・小学生は楷書、中学生は行書とし、下記のように各学年の課題を定める。(発表は 10 月)
 - ・小 1・2 年はフェルトペン、小 3～中 3 年は毛筆。小学生は楷書、中学生は行書とする。
 - ・作品には学年と氏名を書く。学年の書き方は、各校で使用している表記としてよい。
- (例 中学 1 年→7 年)

学 年	課 題	学 年	課 題
小学校 1 年生		中学校 1 年生	
小学校 2 年生		中学校 2 年生	
小学校 3 年生		中学校 3 年生	
小学校 4 年生			
小学校 5 年生			
小学校 6 年生			

6 連絡事項

(1) 各地区の「優秀賞」選出点数

地 区	「優秀賞」学年選出点数 (特別支援)	地 区	「優秀賞」学年選出点数 (特別支援)
賀 茂	2 (1)	静 岡	18 (1)
田 方	3 (1)	志 太	11 (1)
東 豆	3 (1)	榛 原	3 (1)
三 島	3 (1)	小 笠	5 (1)
駿 東	7 (1)	磐 周	7 (1)
沼 津	5 (1)	湖 西	2 (1)
富 士	11 (1)	計	80 (13)

(2) 各地区からの作品の提出方法

- ・各地区で取りまとめた作品は、令和9年 月 日 () までに最寄りの学生協に提出し、県学生協連合会に搬入する。
- ・規定の出品一覧表、出品票（席書コンクールと同じ）を使用し、作品との確認をする。出品一覧表は作品と一緒に梱包し、県学生協連合会に届くようにする。

(3) 審査会の持ち方

- ・日 時：令和9年2月9日（火）
9：30～（小学校3年生～6年生、特別支援）
13：30～（小学校1、2年生、中学校1～3年生）
- ・会 場：県学生協連合会4階会議室（静岡市駿河区登呂6丁目14-27）
- ・審査は、正副部長、事務局および各地区教員代表、本部専門委員が行う。
- ・審査後、所定の台紙に貼り、展示の準備をする。

(4) 最優秀作品展

- 【会 期】 令和9年2月19日（金）～ 2月28日（日）
平日は8：30～21：00 土曜日は9：00～17：00
2月21日（日）は休館日
<最終日は15：00まで>
- 【会 場】 静岡県教育会館ギャラリー
展示作業…2月18日（木） 17：00～
片付作業…2月28日（日） 15：00～

静岡県児童生徒書初めコンクール評価会

R9.2.〇

I 全体会 9:30～9:40（午後の部 13:30～13:40） 司会（ ）

- 1 開会の言葉（司会）
- 2 部長挨拶（部長 校長）
- 3 審査の手順（事務局）
 - ① 各学年、地区ごとの名簿と出品作品の照合をする。
 - ② 各学年、出品作品を評価し、「最優秀 8 点」「優秀 72 点」を選出する。特別支援は、「最優秀 1 点」「優秀 12 点」を選出する。
 - ③ 審査の振り返りをする。
 - ・ 作品の出品票に賞ごと〇印をつける。
 - ・ 各地区の名簿に賞を記入する。
 - ・ 最優秀賞名簿に「地区名」「学校名」「氏名」を記入し、本部に提出する。
 - ・ 最優秀賞作品を台紙に貼る。
 - ・ 最優秀賞以外の作品と名簿を地区ごとに返却する。
 - ・ 最優秀賞者に配付する展示会通知封筒を作成し、地区ごとに配付する。

II 評価 9:40～11:30（午後の部 13:40～15:30）

○各学年評価

<午前の部> 小学校 3～6 年、特別支援

<午後の部> 小学校 1・2 年、中学校

○事務局

- ・ 賞状を地区ごとに配付する。
- ・ 最優秀賞者名簿の作成

III 全体会 11:30～11:45（午後の部 15:30～15:45） 司会（ ）

- 1 評価の振り返り（事務局）
- 2 評価を終えて（副部長 校長）
- 3 閉会の言葉（司会）

IV 各地区の作業

VI 審査員構成（案）

<事務局>担当副部長、担当教員代表、（部長）

<学年担当>

	学年	審査員		
小学校	1年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	2年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	3年	各地区代表教員 2	本部役員 1	3人
	4年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	5年	各地区代表教員 2	本部役員 1	3人
	6年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
中学校	1年	各地区代表教員 2	本部役員 1	3人
	2年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	3年	各地区代表教員 1	本部役員 2	3人
	特別支援	部長 1、副部長 1		2人
	計	15人	15人	30人

(2) <事務局>担当副部長、担当教員代表、（部長）

<学年担当>

	学年	審査員		人数
午前	小3		本部役員 3	3人
	小4		本部役員 3	3人
	小5		本部役員 3	3人
	小6		本部役員 3	3人
	特別支援	部長 1、副部長 1、代表校長 1		3人
午後	小1	各地区代表教員 3		3人
	小2	各地区代表教員 3		3人
	中1	各地区代表教員 3		3人
	中2	各地区代表教員 3		3人
	中3	各地区代表教員 3		3人
	計	18人	12人	30人

静教研 書写部 事務局等選出について

令和 8 年 2 月 17 日

1 事務局選出について

○それぞれの役職は、1年ごと交代する。

(1) 部長

- ・令和7年度から、3ブロックのローテーションによる選出とする。
(静岡・静岡東・静岡)
- ・静岡は、「①志太、②磐周・湖西、③小笠・榛原、」の3地区で回す。
- ・静岡東は、「①東豆、②三島、③駿東、④沼津、⑤富士、⑥賀茂、⑦田方」の順で、部長・副部長のどちらかを担当する。

(2) 副部長

- ・令和7年度から、ローテーションによる選出とする。
- ・部長選出以外のブロックから、1名ずつを選出し、2名体制とする。
- ・それぞれ「席書コンクール」と「書き初めコンクール」の責任者とする。

(3) 事務長・会計

- ・部長選出の地区から、部長が選出する。

(4) 席書コンクール・書き初めコンクール担当者

- ・責任者となった副部長の地区の教員代表が担当する。

2 ローテーション表

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
夏季大会	駿東 沼津	静岡	小笠 榛原	富士	志太	駿東 沼津	静岡
部長 (ブロック)	静岡	静岡東	静岡	静岡西	静岡東	静岡	静岡西
(地区)	志太	三島	静岡	磐周 湖西	富士	静岡	小笠 榛原
副部長 (静岡東)	東豆		駿東	沼津		賀茂	田方
副部長 (静岡)	静岡	静岡		静岡	静岡		静岡
副部長 (静岡西)		磐周 湖西	小笠榛原 →志太		(志太→ 小笠榛原)	磐周 湖西	
席書 (副会長)	静岡	静岡	駿東	沼津	(志太→ 小笠榛原)	磐周 湖西	静岡
書き初め (副会長)	東豆	磐周 湖西	小笠榛原 →志太	静岡	静岡	賀茂	田方

※1 副部長は、夏季大会開催地区以外の地区から選出する。

※2 静岡地区は、夏季大会実行委員長と副部長が重なった場合、できれば2人の校長代表の選出をお願いする。

※3 ブロック内のローテーションを基本とするが、夏季大会と重なった場合等、不都合が生じた時はブロック内で入れ替えをし、負担を軽減する。

※4 席書・書き初め担当の副部長は、引き継ぎしやすくするため、できるだけ同一ブロック（静岡東・静岡・静岡西）で2年連続して行う。

令和8年度以降の「夏季研究大会」予定

ここ数年間の夏季大会

年度	地域	地区	開催日時	開催会場など
平成27年度	東 部	三島・田方	8月6日(木)	伊豆の国市「葦山文化センター」 大会長:田村 昭 校長 参加者:165名
平成28年度	中 部	静岡	8月4日(木)	静岡市「はーとぴあ清水」 大会長:四方 行英 校長 参加者:216名
平成29年度	静 西	磐周 浜松・湖西	8月9日(水)	全国書写書道研究会 全国大会 浜松市「クリエート浜松」 508名 大会実行委員長:紅林 定宏 校長
平成30年度	静 東	駿東・沼津	8月8日(水)	沼津市「沼津市民文化センター」 大会長:福島 英子 校長 参加者:215名
令和元年度	静 西	小笠・榛原	8月7日(水)	菊川市「文化会館アエル」 大会長:石谷 和親 校長 参加者:127名
令和2年度	静 東	富士	紙上開催 「書写研」にて	紙上发表 大会長:犬浦 教雄 校長
令和3年度	静 岡	静岡	8月4日(水)	静岡市「県教育会館」 大会長:望月 俊昭 校長 オンデマンド形式
令和4年度	静 西	志太	8月3日(水)	藤枝市「生涯学習センター」 大会長:羽山 和美 校長 参加者:72名
令和5年度	静 東	三島・田方	8月2日(水)	三島市立北小学校 大会長:菊地 勝義 校長 参加者:98名
令和6年度	静 西	磐周・湖西	8月7日(水)	福田中央交流センター 大会長:竹下 敦子 校長 発表者:湖西 飯田 倅希教諭(鷺津小) 磐周 谷口 大士教諭(旭が丘中) 参加者:140名
令和7年度	静 東	駿東・沼津	8月6日(水)	沼津教育会館 大会長:高村 淳子 校長 発表者:賀茂 村松 未央教諭(河津小) 東豆 太田 泰成教諭(伊東南中)
令和8年度	静 岡	静岡	8月5日(木)	静岡県教育会館すんぷらーざ 大会長:尾崎 未希 校長 発表者:
令和9年度	静 西	小笠・榛原	日にちは国語科と要相談。(図書館とも確認の方がよい) * 基本は初日が書写、2日目が国語	
令和10年度	静 東	富士		

担当地域・地区ローテーション

静東	賀茂・東豆 R15年	駿東・沼津 30年	富士 R2年	三島・田方 R5年	駿東・沼津 R7・12年	富士 R10年
静岡			静岡 R3・13年		静岡 R8年	
静西	磐周 29年	小笠・榛原 R元・14年	志太 R4・11年	磐周・湖西 R6年	小笠・榛原 R9年	

＜令和7年度＞ 各種原稿の執筆計画

1 研究部誌「書写研」

年 度	号	内 容 と 執 筆 者
令和 5年度	58号 (HP上)	◇研究大会報告、研究調査報告 (事務長・山本名菜子)
令和 6年度	60号 (HP上)	◇研究大会報告、研究調査報告 (事務長・山本名菜子)
令和 7年度	61号 (HP上)	◇研究大会報告、研究調査報告 (事務長・小林良樹)
令和 8年度	62号 (HP上)	◇研究大会報告、研究調査報告 (事務長・村松 由理)

2 (1) 大会報告 (1/4ページ 9月上旬〆切)

年 度	号	刊行月	内 容 と 執 筆 者
令和 5年度	129号	9月	◇夏季大会報告 大会事務局長 黒石 久子
令和 6年度	132号	9月	◇夏季大会報告 大会事務局長 諸井 葵
令和 7年度	135号	9月	◇夏季大会報告 大会事務局長 大石 明美
令和 8年度	138号	9月	◇夏季大会報告 大会事務局長 小倉 拓海

(2) 研究部の追究 (実践記録)

静教研 研究冊子『ときめき かかわり 未来へつなぐ』

(12月発行) 2ページ

年 度	号	執 筆 者
令和 2年度	51号	静東/田方 伊豆市立土肥小中一貫校 亀山 諭子
令和 3年度	52号	静西/志太 焼津市立焼津中学校 永田 律子
令和 4年度	53号	静東/駿東 長泉町立長泉小学校 西川 史野
令和 5年度	54号	静岡 静岡市立東中学校 小澤 寿子
令和 6年度	55号	静東/富士 富士市立大淵中学校 塚本 健太
令和 7年度	56号	小笠 掛川市立北中学校 榛葉 恵理
令和 8年度	57号	東豆

「ときめきかかわり未来へつなぐ」執筆ローテーション

- | | | |
|------------|----------|----------|
| ① 静西 小笠・榛原 | | R7 (小笠) |
| ② 静東 賀茂・東豆 | H30 (賀茂) | R8 (東豆) |
| ③ 静西 磐周・湖西 | R1 (湖西) | R9 (磐周) |
| ④ 静東 田方・三島 | R2 (田方) | R10 (三島) |
| ⑤ 静西 志太 | R3 | R11 |
| ⑥ 静東 駿東・沼津 | R4 (駿東) | R12 (沼津) |
| ⑦ 静岡 | R5 | R13 |
| ⑧ 静東 富士 | R6 | R14 |

令和8年度 書写教育 研究部 役員一覧(案)

		氏名	学校名	職名	Email	個別/共用
部長		大村 慎一	三島市立坂小学校	校長	sakasyo@city-mishima.ed.jp	共用
副部長		静岡地区	席書担当	校長		
		藤井 千帆	湖西市立東小学校(書初担当)	校長		
事務長		村松 由理	三島市立山田中学校	教諭	yamadachu@city-mishima.ed.jp	共用
幹事	校長	静岡地区	副部長	校長		
		藤井 千帆	湖西市立東小学校(副部長)	校長		
		静岡地区	次年度部長	校長		
	教職員	小倉 拓海	静岡市立蒲原中学校(席書担当)	教諭		
		湖西地区	(書初担当)	教諭		
		静岡地区	(展示担当)	教諭		
会計監査		静岡地区	副部長	校長		
		藤井 千帆	湖西市立東小学校(副部長)	校長		
		静岡地区	次年度部長	校長		
研究大会	実行委員長	尾崎 未希	静岡市立足久保小学校	校長	asikubo-eo@shizuoka.ednet.jp	共用
	事務局長	小倉 拓海	静岡市立蒲原中学校	教諭	kanbara-jo@shizuoka.ednet.jp	共用
編集委員	主任	村松 由理	三島市立山田中学校(事務長)	教諭	yamadachu@city-mishima.ed.jp	共用
	大会報告執筆者	小倉 拓海	静岡市立蒲原中学校(大会事務局長)	教諭	kanbara-jo@shizuoka.ednet.jp	共用
	研究冊子執筆者	東豆地区	ローテーション	教諭		
	研究部成果刊行物責任者	村松 由理	三島市立山田中学校(事務長)	教諭		
会計	主任	藤井 達也	三島市立北上小学校	教諭	kitauesyo@city-mishima.ed.jp	共用
	夏季大会	静岡地区		教諭		
評議員		部長と事務長は評議員を兼ねる				